



「音楽で暮らしに感動を届ける」ザ・シンフォニーホールの情報誌

Vol.65

2024 9月 -11月

2024 9/10 発行

TAKE FREE

ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団 Gürzenich Orchestra Köln 大阪公演



Sakari Oramo

Close Up

大和証券グループ Presents

フランクフルト放送響楽団 大阪公演

アラン・アルティノグル インタビュー

ゲルハルト・オピッツ プレミアムピアノ・リサイタル

宮田大×福間洸太郎 デュオリサイタル インタビュー

ほか



Akiko Suwanai

- プロジェクションマッピング×パイプオルガン 新 超絶のスター・ウォーズ
全曲リニューアル!新年もパイプオルガンがスゴ過ぎる!!
- 2 ジルベスターコンサート2024 ニューイヤーコンサート2025 錦織 健 インタビュー
- 4 フランクフルト放送交響楽団 大阪公演 アラン・アルティノグル インタビュー
- 5 ゲルハルト・オピッツ プレミアム ピアノ・リサイタル
- 6 ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団 大阪公演 諏訪内晶子 インタビュー
- 7 古澤 巖×ベルリン・フィルハーモニック スtrings 愛のクリスマス 2024 インタビュー 前編
- 8 大木麻理 クリスマスオルガンコンサート2024
- 9 仲道郁代 ピアノ・リサイタル
- 10 宮田 大×福岡洸太郎 デュオリサイタル インタビュー 前編
- 12 横坂 源 チェロ・リサイタル2025 インタビュー
- 13 川井郁子 シンフォニックコンサート2025 音楽舞台〜源氏がたり〜&ヴァイオリンコンサート
- 14 珠玉のシネマ名曲SELECTION Vol.9 荒唐子 チェロ・リサイタル 2024
- 15 ユンディ プレイ モーツァルト ピアノ・リサイタル「ソナタ プロジェクト」
- 16 The Symphony Hall Big Band
- 17 The Symphony Hall Super Brass × THE SOUL MATICS ゴスペル
- 18 ベルリン・フィルのノア・ベンディックス=バルグリーが語るフィルハーモニクス ウィーン=ベルリン
- 20 砂川涼子 ソプラノ・リサイタル インタビュー
- 22 来日35周年記念コンサート《フランチェスコ・ダルテニャ with フレنز》
〜イタリアオペラのレジェンドと日本のオペラスターたちの共演〜 小川里美&樋口達哉 インタビュー
- 24 オールスター紅白オペラ歌合戦 2024 十合翔子インタビュー
- 25 ザ・キングズ・シンガーズ コンサート/清水和音 ピアノ・リサイタル
- 26 福岡洸太郎 ピアノ・リサイタル インタビュー 後編
- 27 上原彩子 ピアノ・リサイタル
- 28 熱狂コンチェルト2025
- 29 ハリウッド フェスティバル・オーケストラ ニューイヤーコンサート!
Osaka Shion Wind Orchestra 第157回定期演奏会
- 30 『美術家 山口和也 絵画というリサイタル』
- 31 小味渕彦之「こみちゃんの温故知新」vol.11
- 32 関西4オケ Pick Up コンサート
- 34 ABCテレビ主催公演:イベント情報
- 38 日本センチュリー交響楽団
- 40 韓日修好60周年記念公演 韓国国立合唱団 初来日コンサート
ショパニストアーツプレゼンツ 第2回ドクタースピアノコンサート for NEXTVISION
- 41 堀江政生のシンフォニア・アワー vol.65
- 42 ホールトピックス
- 43 Concert Calendar 2024.9~2024.11

9月のSinfonia会員先行予約について

Sinfonia会員先行予約を開始する9月19日(木)~9月25日(水)の期間は「お電話」と「窓口」の営業を10:00~18:00とさせていただきます。この期間以外の営業時間は、お電話・窓口ともに11:00~16:00となります。※火曜定休

※Sinfonia会員先行予約期間中は、電話・WEBのみのご予約となります。

※Sinfonia会員先行期間中にご予約されたチケットは、すべて郵送でのお届けとなります。

●電話:ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 (火曜定休)

新型コロナウイルス感染拡大の状況により、営業時間に変更となる場合がございます。詳細はホームページをご確認ください。

●WEB:<https://www.symphonyhall.jp/>

シンフォニア会員登録方法

シンフォニア会員にご登録いただきますと、先行予約のご利用、シンフォニアのお届け、メールマガジンの受け取り等お得な特典をご利用いただけます。ぜひご登録ください!

▼ WEBサイトからのご登録

ザ・シンフォニーホール ホームページ
<https://yyk1.ka-ruku.com/symphonyhall-s/showList> からご登録ください。
利用登録後、ログインをしていただき、マイページから「入会」ボタンを押してください。

▼ ハガキでのご登録

定型ハガキに下記の情報を記載いただき、63円(10月1日より85円)切手を貼付の上、ポストに投函ください。
【定型ハガキ裏】1.お名前(フリガナ付き)、2.性別、3.郵便番号、4.住所、5.電話番号、6.メールアドレス(メールマガジン受取りの場合)
【定型ハガキ表】〒531-8501 大阪市北区大淀南2丁目3-3
ザ・シンフォニーホール「シンフォニア」係

※手続き完了後、約2週間で会員番号のお知らせと、シンフォニア最新号をお送り致します。

※携帯端末のメールアドレスをご登録いただく場合、受信設定している方はメールが受信できない場合がございます。
【@symphonyhall.jp】をドメイン指定受信してください。指定方法はご利用の携帯電話会社にお問い合わせください。

【お客様の個人情報の取り扱いについて】株式会社ザ・シンフォニーホールでは、次に掲げた内容にしたがって、個人情報の取扱いを営んでいます。○お客様からご提供いただいた個人情報については、個人情報に関する法令、規範に準拠して管理いたします。○お客様からいただいた個人情報は、以下の目的のみに使用し、それ以外には一切使用いたしません。(1) シンフォニア会員様への情報誌「シンフォニア」および関連する印刷物の発送 (2) ザ・シンフォニーホールで開催する催事をご案内する印刷物の発送 (3) ホールなど施設の利用に関するご案内、ご連絡 (4) ザ・シンフォニーホールの事業、サービスの開発・改善を目的とした調査・研究のためのアンケートの送付・分析・データ集積 (5) チケット予約販売に伴う、ご本人確認およびチケットの発行・管理に関するご案内の発送○個人情報の取扱いと個人情報の提供はご自身の意思でご本人様が行うものとなります。○お客様の個人情報を、適正かつ迅速に処理するため、その作業を外部の企業に委託して行うことがあります。その場合、委託先において個人情報 が安全に管理されるよう適切に監視します。

登録費
年会費
無料!

ザ・シンフォニーホール 子供舞台芸術鑑賞体験支援事業

18歳以下限定 子供無料招待席のご案内

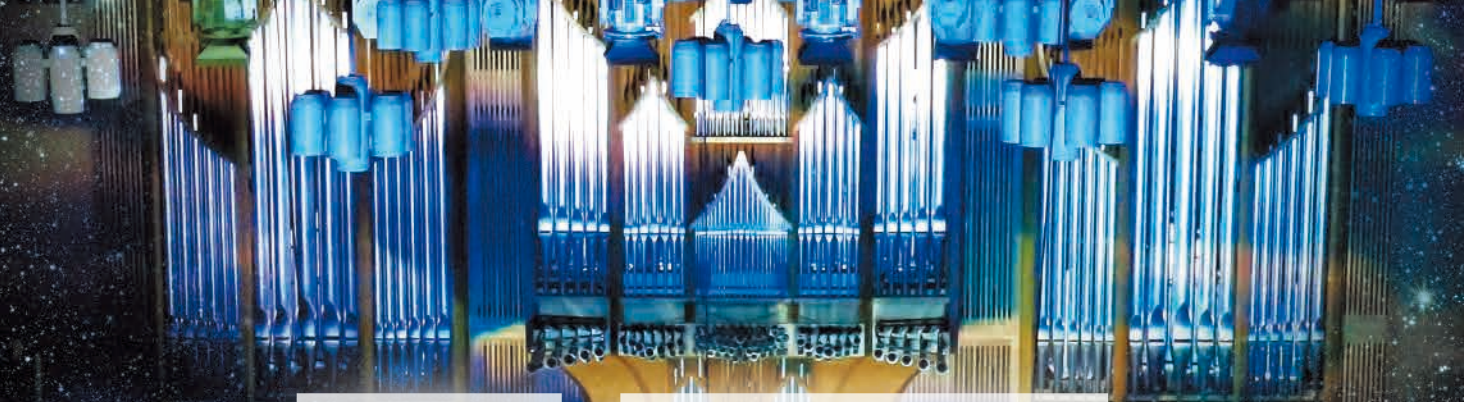
ザ・シンフォニーホールでは、子供たちが劇場・音楽堂等において本格的な実演芸術を鑑賞・体験する機会を提供する取組を、文化庁支援のもとで行うことが決定いたしました。下記の対象公演で子供無料招待席を設け、18歳以下の皆様に公演にご招待いたします。ふるってご応募ください。

対象公演
2024.10/17 (木) 7:00PM 【対象】中学生以上18歳以下
ザ・キングズ・シンガーズ コンサート
2024.10/19 (土) 2:00PM 【対象】中学生以上18歳以下
福岡洸太郎 ピアノ・リサイタル ーストリーズー
2024.11/2 (土) 2:00PM 【対象】中学生以上18歳以下
The Symphony Hall ブラチナコンサート 世界の巨匠とともに 2024 ゲルハルト・オピッツ プレミアム ピアノ・リサイタル
2024.12/20 (金) 7:00PM 【対象】中学生以上18歳以下
砂川涼子 ソプラノ・リサイタル
2024.12/29 (日) 3:00PM 【対象】4歳以上18歳以下
The Symphony Hall Super Brass×THE SOULMATICS ゴスペル ~cooperate with Osaka Shion Wind Orchestra~ The Symphony Hall 2024 年末スペシャルコンサート
2024.12/31 (火) 4:00PM 【対象】小学生以上18歳以下
The Symphony Hall ジルベスターコンサート2024
2025.1/1 (水・祝) 3:00PM 【対象】小学生以上18歳以下
The Symphony Hall ニューイヤーコンサート2025
2025.1/10 (金) 7:00PM 【対象】中学生以上18歳以下
ハリウッド・フェスティバル・オーケストラ ニューイヤーコンサート!
2025.2/11 (火・祝) 3:00PM 【対象】中学生以上18歳以下
The Symphony Hall ブラチナコンサート 世界の巨匠とともに 2024 ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団 大阪公演

対象者

公演当日、対象年齢以上18歳以下
(公演によって異なりますので、ご注意ください)

ご応募・
その他詳細は
こちらから▶▶



プロジェクションマッピング×パイプオルガン

新 超絶の スター・ウォーズ

全曲リニューアル
新年もパイプオルガンがスゴ過ぎる!!

【オルガン】大木麻理

「2001年宇宙の旅」
「インディ・ジョーンズ」
「ハリーポッター」
「E.T.」
「ジュラシック・パーク」
「スター・ウォーズ」
「バック・トゥ・ザ・フューチャー」
「パイレーツ・オブ・カリビアン」
「007」

★プロジェクションマッピング付き ※休憩なし。約60分間のコンサートです。

2025.1/24 (金) 7:00PM 全席指定 3,000円(税込) ※4歳以上のお子様からご入場可能です。
【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333 【主催】ザ・シンフォニーホール 先行予約:9/19(木) 一般発売:9/22(日)

The Symphony Hall

ジルベスターコンサート ニューイヤークンサート 2024 2025



© 鈴木久美子

日本が誇る人気テノールを迎えて、
最高の「聴き納め」&「聴き初め」を！

錦織 健

スペシャル・ゲスト
「テノール」

Ken Nishikiori

Interview

—— 年末年始はいつものように
過ごされていますか？

ほぼ公演でステージに立っています。昨年の大晦日は珍しく家に居てゆっくりできましたが、毎年のんびりとは無縁です(笑)。「カウントダウン・コンサート」の企画にも何度か呼んでいただきましたが、あれはいつも凄く緊張します。とはいえ指揮者次第で、年明けのタイミングにぴったり合わせようとするマエストロもいれば、あまり気にしない方もいるのが面白い。あと、観客としてウィーンで年末年始を過ごしたこともありますよ。大晦日にオペレッタの《こうもり》を観て、「ニューイヤークンサート」を聴く「王道」コース。お客さんもみんな華やかに着飾っていて、とても素晴らしい忘れられない体験でした。

—— 今回はザ・シンフォニーホールのお客様にとって、忘れられない大晦日と元旦をお届けするスペシャル・ゲストとして登場していただきます。

実は「ジルベスターコンサート」と「ニューイヤークンサート」に連続して出演するのは初めてです。今からワクワクしますが、どのタイミングで睡眠をとるべきか悩んでしまいます。脳を休めるためには寝るのがいちばんなのですが、僕の場合は熟睡してしまつと喉を再び立ち上げるのに時間がかかってしまうのです…

起きてすぐに声が出るわけではないので、悩ましい問題です。

—— 「誰も寝てはならぬ」ですね(笑)。冗談はさておき、《トゥーランドット》第3幕で歌われるこのブッチーニがテノールに書いた最高にドラマティックなアリアに加えて、モーツァルト《魔笛》のタミーノ王子による「なんと美しい絵姿」も、大晦日と元旦の両日、錦織さんの歌唱で聴くことができますね。

もして待つていてくれている感覚でしょうか。今の自分にしか歌えないタミーノ王子を皆さんに楽しんでいただけるよう頑張ります。

—— 「ジルベスターコンサート」では《トスカ》第1幕の「妙なる調和」も披露されます。

第3幕の「星は光りぬ」が有名ですが、こちらも華やかにテノールの声を印象つける聴かせどころです。演劇的な要素もある「星は光りぬ」はタイミングなど細かい部分を指揮者と詰めて摺り合わせが必要なのですが、それがないのでリラックスして歌いたいと思います。

ソプラノにとつての蝶々夫人と同じように、我々東洋人テノール歌手にとつては大切にしたい役ですね。どうかご期待ください。

—— 両日共に、ウクライナのメゾ・ソプラノ(アンジェリーナ・シヴァチカ)と《タイム・トゥ・セイ・グッバイ》をデュエットするのも後半の目玉です。

ポップス・ナンバーですので、アリアとは音域も違ってオペラ歌手にとつては難曲ではあるのですが、ジャンルを超えた超名曲ですのでしっかり歌い上げたい。

—— 1834年に誕生した歴史と伝統を誇るウクライナ国立歌劇場管弦楽団とのコラボレーションも今回の公演の醍醐味ですね。

国際政治の問題がそう簡単に解決しないことは承知しています。が、やはりウクライナへの支援と平和へのメッセージを込めて歌いたい。何よりもホリディ・シーズ

ンです。お客さんに幸せな気持ちになっていただきたいのです。

—— ザ・シンフォニーホールで年末年始を過ごしていただけるので感謝いたします！

こちらこそ。響きも素晴らしいけどバックステージのインテリヤや楽屋の雰囲気も大好きで寛げます。声のコンディションが大切なので観光などはあまりしないのですが、大阪に行く楽しみのひとつは「中之島ビーフサンド」。いつも2つ買って、ひとつは新幹線の中で食べ、ひとつは帰って家で食べ…それくらい愛しています。

(取材文 東端哲也)



「指揮」
ミコラ・ジャジュラ



「ソプラノ」
リリア・グレヴツォヴァ



「メゾ・ソプラノ」
アンジェリーナ・シヴァチカ



「管弦楽」ウクライナ国立歌劇場管弦楽団

ザ・シンフォニーホール ジルベスターコンサート2024
[指揮]ミコラ・ジャジュラ [スペシャル・ゲスト/テノール]錦織 健★
[ソプラノ]リリア・グレヴツォヴァ [メゾ・ソプラノ]アンジェリーナ・シヴァチカ
「管弦楽」ウクライナ国立歌劇場管弦楽団

ブッチーニ：『トスカ』より「妙なる調和」★/ブッチーニ：『ラ・ボエーム』より「私の名はミミ」/ブッチーニ：『トゥーランドット』より「誰も寝てはならぬ」★/モーツァルト：『魔笛』序曲、「なんと美しい絵姿」★/サルトリ：タイム・トゥ・セイ・グッバイ(君と旅立とう)★/ヴェルディ：『ドン・カルロ』より「むごい運命」 ほか

2024.12/31(火) 4:00PM
S 12,000円 A 9,000円 B 6,000円(税込)
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] ザ・シンフォニーホール 協力：旭酒造株式会社

発売中

ザ・シンフォニーホール ニューイヤークンサート2025
[指揮]ミコラ・ジャジュラ [スペシャル・ゲスト/テノール]錦織 健★
[ソプラノ]リリア・グレヴツォヴァ [メゾ・ソプラノ]アンジェリーナ・シヴァチカ
「管弦楽」ウクライナ国立歌劇場管弦楽団

レハール：『微笑みの国』より「君は我が心の全て」★/J.シュトラウス2世：「こもり」序曲/J.シュトラウス2世：ワルツ「美しく青きドナウ」/ブッチーニ：「ジャンニ・スキッキ」より「私のお父さん」/J.シュトラウス2世：ホルカ「雷鳴と稲妻」/オッフェンバック：「ホフマン物語」より「ホフマンの舟唄」 ほか

2025.1/1(水・祝) 3:00PM
S 12,000円 A 9,000円 B 6,000円(税込)
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] ザ・シンフォニーホール 協力：旭酒造株式会社

発売中

フランクフルト放送交響楽団音楽監督

アラン・アルティノグル

Alain Altinoglu

Interview

表情豊かで明るくて情熱的な音楽

©PhotoWerk

アラン・アルティノグルはパリ生まれの48歳。ベルギー王立モネ劇場の音楽監督として《ニーベルングの指輪》のオペラ公演で高い評価を得て、2021年からフランクフルト放送交響楽団の音楽監督を務めている。同時にベルリン・フィルやウィーン・フィルといった欧州各地の名門オーケストラに客演するなど、欧州の音楽界で重きをなしている。フランクフルト近郊で行なわれたフランクフルト放送交響楽団(以下HR)のコンサートの前に話を聞いた。ちなみにこの日(6月23日)の演目は、来日公演と同じブルース・リウをソリストに迎えたベートーヴェンのピアノ協奏曲第5番「皇帝」と、後半はスメタナの《わが祖国》から最初の4曲。

アルティノグルは現在、母校のパリ国立音楽院の指揮科の教授を務めるが、彼自身指揮は独学なのだそうです。「そうなんです。パリで学んだのはピアノでしたし、その後も古楽器のオーケストラでチェンバロやオルガンを弾き、劇場で歌手やダンサーにピアノで稽古をつけるコレペティをしていました。指揮はブルーゼスやマゼール、サロネンらにアドヴァイスを受けた程度です」と謙虚に答える。

歌劇場でコレペティなどの経験を積んで指揮者になるのは、欧州伝統の道筋だが、古楽演奏の経験を積んでいるのが今の人らしい。あなた

日本公演のソリスト、ブルース・リウについて訊くと、「とても若いですが音楽的に優れ、美しい音を持っている」と絶賛。大阪では《展覧会の絵》のラヴェル編曲版が予定されている。日本のお客さんはオーケストラの豊かでカラフルなサウンドを楽しみにしていますと告げると、「それはとても大事なことです」とにっこり。「20世紀初頭の重要なオーケストラの作曲家にラヴェルとストラヴィンスキーがいます。二人はとても親しく、協力してムソルグスキーの遺作の歌劇のオーケストラ版を作りました。その結果ロシア音楽がフランスの色彩を纏うことになった。私もフラ



©Yanzhang

「ピアノ」ブルース・リウ

ンズ人ですから、フランスの色彩に染まったロシア音楽を聴いていただきたい。」

インタビュの夜に聴いたコンサートでは、ブルース・リウは持ち前の美しい音と若い人らしい瑞々しい情感のこもった

「皇帝」を披露。後半のスメタナの《わが祖国》《モルダウ》では深みのある音色と歌心いっぱいの弦楽器、カラフルな管楽器というHRの魅力を引き出しつつ、マエストロの手柄そのものの、表情豊かで明るくて情熱的な音楽を聴かせていた。

(取材・文 那須田務)
(取材協力: マリア・ドイツ)

大和証券グループ Presents

[指揮] アラン・アルティノグル [ピアノ] ブルース・リウ

[管弦楽] フランクフルト放送交響楽団

ワーグナー: 楽劇「ニュルンベルクのマイスタージンガー」より第1幕への前奏曲

ベートーヴェン: ピアノ協奏曲 第5番 変ホ長調 op.73「皇帝」

ムソルグスキー (ラヴェル編曲): 組曲「展覧会の絵」

2024.10/16 (水) 7:00PM

S 26,400円 A 22,200円 B 18,700円(全席指定 税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中

GERHARD OPPITZ

ゲルハルト・オピッツ プレミアムピアノ・リサイタル

© キセキミチコ



伝統の継承者が弾く ベートーヴェンとリスト

近年ますます円熟味を増す、ゲルハルト・オピッツの音楽。1953年、西ドイツのバイエルン州に生まれた彼は、19歳の頃、ベートーヴェンの名手として知られるドイツの巨匠、ヴィルヘルム・ケンプから自らを後継する者に認められたエピソードでも知られる。現代の聴衆に向けて、ドイツの伝統的なピアノを土台として枝葉を広げた豊かな音楽を届ける、貴重な音楽家の一人といえる。

そんなオピッツが2022年の「世界の巨匠とともに」に続き、再び同シリーズの公演でザ・シンフォニーホールの舞台に立つ。今回取り上げるのは、ベートーヴェンとリストだ。



ピアノ ゲルハルト・オピッツ

オピッツのレパートリーはもちろんドイツものに限られるわけではなく、その長いキャリアの中、幅広い作品で優れた解釈を届けてきた。一方で歳を重ねるにつれ、ベートーヴェンから続く系譜にある音楽が一層自分に近い存在となってきたともいう。その意味で、ドイツ古典派の作曲家の頂点といえるベートーヴェンと、間にカール・ツェルニーを挟む孫弟子にあたるフランツ・リストという組み合わせのプログラムは、オピッツの真価を聴くのに理想的な内容の一つといえるだろう。交響曲の数々をピアノ編曲するなど、リストがベートーヴェンを生涯にわたり敬愛していたことはよく知られる。

オピッツのベートーヴェンは、さすがその解釈者として名高いだけに、はつとするような表現も一つ一つ腑に落ちる説得力を持つ。初期のピアノソナタである第3番と、広く親しまれる名曲、第23番「熱情」というタイプの異なる2曲で、古典派からロマン派の始まりに近づいていく変容を感じられるだろう。

そしてリストからは、20代後半、彼が当時の恋人だったマリー・ダグー伯爵夫人と訪れたイタリアの芸術や文学から得たインスピレーションに基づき書かれた「巡礼の年」第2年《イタリア》。繊細な「ペトラルカのソネット」からドラマティックな「ダンテを読んで」まで、リストの心

の機微に寄り添い、深く詩情にあふれた演奏を届けてくれるだろう。

かつてオピッツは、「聴衆のいない壁に囲まれた自分だけの部屋で演奏している限り、その表現には限界がある。しかし作曲家の魂と聴衆の存在がインスピレーションとなるステージでは、その制限を超えることができる」と話していた。日本で最も好きなコンサートホールの一つだというザ・シンフォニーホールで、確かな説得力を持ち、自由自在に語るベートーヴェンとリストを聴くことができそうだ。

(文 高坂はる香)

[ピアノ]ゲルハルト・オピッツ

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第3番 ハ長調 op.2-3 / ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第23番 ヘ短調 op.57「熱情」 / フランツ・リスト：巡礼の年 第2年「イタリア」S161/R10b 1.婚礼 2.物思いに沈む人 3.サルヴァトーレ・ローザのカンツォネッタ 4.ペトラルカのソネット第47番 5.ペトラルカのソネット第104番 6.ペトラルカのソネット第123番 7.ダンテを読んで・ソナタ風幻想曲

2024.11/2(土) 2:00PM

全席指定 S 8,000円 A 6,000円(税込)

[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

©Holger Talinski

Gurzenich Orchestra Köln

ケルン・ギュルツェニヒ 管弦楽団 大阪公演

【指揮】サカリ・オラモ

©Benjamin Ealovega

【ヴァイオリン】

諏訪内晶子

©Kiyotaka Saito

指揮者フランソワ・グザヴィエ・ロトは、自身に関する一部報道を受け、一時的に活動を停止しております。日本ツアーは楽団との協議の結果、サカリ・オラモに変更させて頂くことになりました。皆様のご理解をお願い申し上げます。なお、オラモ氏の実績は本文をご一読ください。

<招聘元 株式会社ジャパン・アーツ>

名匠オラモが名門ケルン・ギュルツェニヒ管とマラー第5番を演奏！

ドイツの名門、ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団が、かつて作曲家自身の指揮によって世界初演を担ったマラーの交響曲第5番を大阪の聴衆に披露する。指揮は、フィンランド出身の名匠、サカリ・オラモである。

1965年生まれのオラモは、ヴァイオリニストとしてキャリアを始め、17歳のときに室内管弦楽団「アヴァンティ」の創設に参加。1989年にフィンランド放送交響楽団のコンサートマスターに就任した。並行して、シベリウス音楽院で有名な指揮教授、ヨルマ・パヌラに指揮を師事。1993年に、予定されていた指揮者の急病により、代役でフィンランド放送交響楽団を指揮して、大きな成功を収める。1994年に

フィンランド放送響の副首席指揮者となった。

そして、1998年に、サイモン・ラトルの後任として、彼が18年かけて世界レベルのオーケストラに成長させたバーミンガム市交響楽団の首席指揮者に32歳の若さで就任し、世界的な注目を集める。2000年にはNHK交響楽団を指揮して、日本デビューを飾った。

その後、古巣のフィンランド放送響、ロイヤルストックホルム・フィルハーモニー管弦楽団のシェフを歴任。2013年からBBC交響楽団の首席指揮者を務めている。BBCプロムスのラスト・ナイトで指揮するオラモの映像をご覧になった方も多いに違いない。また、ベルリン・フィルの定期演奏会に毎年のように登場し、今年10月にも招かれ、合唱付きの70分を超える大作、ブゾーニのピアノ協奏曲（独奏：キリル・ゲルシュタイン）を指揮する予定であるなど、ヨーロッパでの評価は極めて高い。

フィンランドを代表する指揮者だけに、シベリウス作品の演奏で名高いが、マラーの交響曲にも造詣が深い。これまでに、マラーの交響曲では、第1番「巨人」、第2番「復活」、交響曲第5番をCD録音している。今回、伝統あるケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団とどのような第5番の演奏を繰り広げるのか本当に楽しみである。とりわけ、オラモは、ヴァイオリ

ンの名手でもあっただけに、弦楽器だけによる第4楽章「アダージェット」でこの上なく美しい演奏を聴かせてくれるに違いない。

演奏会の前半では、日本を代表するヴァイオリニスト、諏訪内晶子がブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番を弾く。諏訪内は、オラモがバーミンガム市響の音楽監督であった時代に、彼らとシベリウスとウオルトンのヴァイオリン協奏曲をCDに録音している。諏訪内とオラモとは、ヴァイオリニスト同士で、息の合った演奏を展開。ブルッフのヴァイオリン協奏曲第1番でも名演が期待される。

(文 山田治生)

【指揮】サカリ・オラモ 【ヴァイオリン】諏訪内晶子

【管弦楽】ケルン・ギュルツェニヒ管弦楽団

※都合により当初発表の指揮者から変更になりました。

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 op.26

マラー：交響曲 第5番 嬰ハ短調

2025.2/11(火・祝) 3:00PM

S 22,000円 A 19,800円 B 15,400円(全席指定 税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

古澤 巖 × ベルリン・フィルハーモニック ストリングス

愛のクリスマス 2024

心を開き、ホールいっぱいに
「愛」を届けるクリスマスの演奏会

Interview
前編



「弦楽アンサンブル」ベルリン・フィルハーモニック ストリングス

マリノさんのアレンジ曲を披露

—— 今回のマリノさんとの「目玉」を教えてください。

私の音楽人生も半分以上が過ぎたかと思っていますが、マリノさんとのコンビは集大成です。今回はシンフォニックな名曲中の名曲「ボロディン」「ダッタン人の踊り」の弦楽六重奏への編曲に挑戦いただきました。誰もが初めて聴く新曲ではなく、皆が知っている曲のアレンジは、これまででなかったことで楽しみです。

—— プログラムには、ドビュッシーなどフランスものが並んでいます。

チェロのダービットさんが才能ある作曲家、アレンジヤーです。グループで弾いてみたいとアレンジをたくさんつくってくれました。「月の光」のようなピアノ曲を6人がかりで弾くのは至難ですが、「ピアノ曲をオーケストレーションするならば、こんなスコア」と思わせる素晴らしいものでした。もう一つのメインと言えます。初めは「好きなマリノさんをシェアする」感覚だったのですが、メンバーからの提案がうれしいです。

—— 一昨年から入れ替わったメンバーとの演奏で、どんなことを感じていますか。

1人ずつにでこぼこがあっても、6人が力を合わせてなだらかにする。1曲の弾きこなし方が分かってきました。私が皆を束ねる位置にあるのですが、ステージで自由さを感じてくれたら。これまでは「愛のクリスマス」というような人間でなかったかもしれない。「お客さんに心を開き、愛情を見せなくてはならない」とは、別ツアーで共演した俳優の山本耕史さんから教わったことです。自分が仲間を愛おしく思えるようになってから、メンバーの雰囲気も変わってきました。10年たって、ようやくセンターを張る自覚が芽生えたのかと思います。

ホール攻略に自信、生まれ変わった自分を見て

—— ザ・シンフォニーホールには、どんな印象をお持ちですか。

まだ「攻略」できていないんです。遠くのお客さんにまで音を届けようとして崩壊してしまうのが私の悪癖なのですが、逆に丁寧にまとめることを思い出しつつ、演奏ポジションを前にすることなどを考え

ています。ストラテバリオウスの鳴りもよくなっている、この演奏会で99%行ける自信があります。

—— 聴衆の皆さんへのメッセージをお願いします。

演奏会には言葉はなくても聴衆とのコミュニケーションが発生しますが、大阪では遠慮なく心を開いてもらえる感覚があります。演奏家として生まれ変わっていききたいと思っています。ぜひ期待して来ていただいたらうれしいです。

(取材・文 最上聡)

「ヴァイオリン」古澤 巖

「弦楽アンサンブル」ベルリン・フィルハーモニック ストリングス

ボロディン: 「ダッタン人の踊り」

フォーレ: 「パヴァーヌ」、 「シシリエンヌ」

ロベルト・ディ・マリノ: 「コンチェルト」よりコラージュ

ドビュッシー: 「月の光」 ほか クラシックの小品、クリスマス曲など

2024. 12/11 (水) 7:00PM

S 8,800円 A 7,000円 U25 3,000円(税込)

※U25席は引換券発行にて当日指定、4枚限定、一般発売より チケットぴあにて発売

【お問い合わせ】キョードーインフォメーション 0570-200-888

【主催】NHKエンタープライズ/ザ・シンフォニーホール

シンフォニア会員先行: 9/19 (木) 一般発売: 9/28 (土)



仲道郁代

ピアノ・リサイタル

ポロネーズとバラードという重要なジャンルを通じショパンの真髄に迫る

ショパンと長きにわたって向き合い続けてきた、ピアニストの仲道郁代。ステージでショパンの音楽を聴衆と共有し、また近年はブレイエルなどショパンの時代の楽器を弾くことによる奏法の探究も行つて、その音楽を掘り下げてきた。これまでザ・シンフォニーホールでもたびたびオール・ショパン・プログラムを取り上げ、多角的なアプローチから作曲家の人間性とその音楽を紹介してきた。

そんな仲道が今回演奏するのは、ポロネーズとバラードの全曲演奏というプログラム。ポーランドのワルシャワで育ち、後半生はパリに暮らして、祖国の土を踏むことなく39歳で没したショパンにとって、ポロネーズやバラードは、自らのアイデンティティをかけて大切に続けたジャンルの筆頭といえる。

ショパンが7歳で初めて作った曲はポロネーズであり、彼は以後、生涯にわたってこのジャンルに優れた作品を書いたことが知られている。ポーランドへの愛、

民族土着の力強さ、そして雄々しいものへの憧れというすべてが込められた、高貴な美しさを持つ作品群だ。

今回仲道は、作品番号付きで出版された全7曲のポロネーズを取り上げ、その時々のショパンの複雑な心の有り様、晩年の「幻想ポロネーズ」に向かって上り詰めていった精神性を追ってゆく。仲道のしなやかかつ凛々しいピアノが、きらめく音色とリズムをくつきりと表出し、ポロネーズの魅力存分に伝えてくれるだろう。

ショパンが提示しようとした情感やストーリーをしっかりと伝えてくれることだろう。

ピアニストにとっては精神的にへビーな内容といえるかもしれないが、名曲だけを抜き出すのとはまた違ったアプローチからじっくりショパンについて知り、その世界に浸ることができる、魅力的なプログラム。恒例の、ショパンをめぐる興味深いトークもある。華やかかつ理論的な仲道のピアノで、ショパンの真髄に迫ることができそうだ。

(文 高坂はる香)

[ピアノ] 仲道郁代

《オール・ショパン・プログラム》

ポロネーズ第1番 嬰ハ短調 op.26-1 / ポロネーズ第2番 変ホ短調 op.26-2 / ポロネーズ第3番 イ長調 op.40-1「軍隊」 / ポロネーズ第4番 ハ短調 op.40-2 / ポロネーズ第5番 嬰ヘ短調 op.44 / ポロネーズ第6番 変イ長調 op.53「英雄」 / ポロネーズ第7番 変イ長調 op.61「幻想ポロネーズ」 / バラード第1番 ト短調 op.23 / バラード第2番 ヘ長調 op.38 / バラード第3番 変イ長調 op.47 / バラード第4番 ヘ短調 op.52

2025.3/22 (土) 2:00PM

全席指定 5,000円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

先行予約: 9/19 (木) 一般発売: 9/22 (日)



今年のクリスマスの思い出は、ザ・シンフォニーホールのオルガンで！

大木麻理の名は、すでに大阪のオルガンファンにもおなじみだろう。日本人として初めてブクステフデ国際コンクールで優勝して以来、各地で多彩な演奏活動を展開中のオルガン奏者である。去る7月26日、ザ・シンフォニーホールで「超絶のタイタニック」と題したプロジェクト「シン・マッピング」と連動したコンサートを開催した。光と音の饗宴によって、「タイタニック」ターミネーターなどの映画音楽の名作を多くのファンが堪能したのは記憶に新しい。ホールにあるスイスのクーン社製オルガンから、ダイナミックで色彩豊かな響きを引き出した大木の手腕は高く評価された。現在ミュンヘンザ川崎シンフォニーホールでオルガニストをつとめるほか、さまざまな演奏会でひっぱりだこの今最も多忙な奏者が、12月14日に



オルガン 大木麻理

ふたたび大阪に帰ってくる。

コンサートはちょうどクリスマス直前の時期でもあり、バツハからクリスマス・ソングまで、時節にあったレパートリーで構成されている。まずスコットの《クリスマス・セレブレーション》で始まり、続いてバツハから3曲。とりわけ《主よ人の望みの喜びよ》《アヴェ・マリア》(グノー編曲)は聞き覚えのある方も多いのではないだろうか。おなじみのバツハの名旋律が、オルガンの荘厳な調べで披露されるので期待したい。子供から大人まで楽しめるクリスマス・ソング《ジングル・ベル》(三澤慶編)も取り上げられる。いつもとは一味違うオルガンによるクリスマス・ソングは、この時期ならではの楽しい気分を高めてくれるにちがいない。

オルガンは天上の世界を想起させるような敬虔な調べが特徴だが、オーケストラにも似た迫力とスケール感のある表現も得意な楽器だ。今回はチャイコフスキーのバレエ音楽「くるみ割り人形」Op.71より、《小序曲》《行進曲》《金平糖の精の踊り》《花のワルツ》が演奏される。まさにこの時期にぴったりのバレエ音楽で、物語はクリスマスの日にく

るみ割り人形をプレゼントされた少女クララが見た幻想的な世界が舞台だ。兄弟にくるみ割り人形を壊されてしまい修理してもらったクララ。真夜中に人形が気になり見に行くと、クララの体が小さくなってしまい、人形たちの世界へ誘われる。そこで王子様に変身した人形の案内で、お菓子の国で素敵な体験をするのである。《金平糖の踊り》《花のワルツ》などよく知られた心躍る音楽が、華やかなオルガンの響きで披露される。12月ならではの曲目が満載な今回のオルガンコンサート。クリスマスを感ずるひとときをご家族や大切な方とお過ごしください。

(文 伊藤制子)

[オルガン] 大木麻理

J.スコット: クリスマス・セレブレーション / J.S.バツハ: 主よ人の望みの喜びよ BWV147 / J.S.バツハ: トッカータ、アダージョとフーガ ハ長調 BWV564 / J.S.バツハ / C.グノー: アヴェ・マリア / 三澤慶編: ジングル・ベル / P.チャイコフスキー: バレエ音楽「くるみ割り人形」op.71より・小序曲・行進曲・金平糖の精の踊り・花のワルツ

2024.12/14 (土) 7:00PM

全席指定 3,000円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

先行予約: 9/19 (木) 一般発売: 9/22 (日)

[チェロ] 宮田 大 DAI MIYATA
[ピアノ] 福間 洸太郎 KOTARO FUKUMA

デュオリサイタル

Interview
前編

人気の二人がザ・シンフォニーホールで
待望の「デュオ・リサイタル」を開催！



© 鈴木久美子

——お二人の初共演は2021年1月に東京と大阪で開催された宮田さんのチェロ・リサイタルだったそうですね。

福間 かなり。攻めたプログラムで前半はラフマニノフの「吟遊詩人の歌」に始まり、チェロとピアノのために編曲されたリムスキー＝コルサコフの「シェヘラザード」やレスピーギの「リュートのための古風な舞曲とアリア第3組曲」を。後半はラフマニノフの4楽章からなる「チェロ・ソナタ」でした。そして2回目の共演が2022年の7月にブラジルやドミニカンなどフランスものを。そして昨年2023年にオール・ラフマニノフをやったんだよね。

宮田 結構たくさん一緒にやっているけれど、どれもたいへんなプログラムばかりという印象です(笑)。

——ザ・シンフォニーホールでの共演は今回の「デュオ・リサイタル」が初。それぞれご出演は多いお二人なのに意外です。宮田さんは2022年の「ピアノラへのオマージュ」や本ホールの名物企画「熱狂コンチェルト」が鮮烈でしたし、福間さんも昨年の「熱狂」が記憶に新しいのは言うまでもなく、今年は5月の大阪フィルとのチャイコフスキー「ピアノ協奏曲第1番」に続き……



ル」で優勝した時に、有難いことに注目いただいたから：20周年はあと5年後くらいでしょうか。でも過去を顧みることもとても大切ですね。僕も公演チラシやプログラムは全てとってあります。福間 今から整理しておいた方がいいですよ！封をしてそのままにしている段ボール箱とかを開けることになりそうですから(笑)。

——お二人とも他の演奏家の方とのコラボレーションなども多くて多忙ですか。

宮田 ピアニストに比べると、チェロのために書かれた曲って圧倒的に少ないので、どうしても試行錯誤が必要になってきます。

——宮田さんの場合は演奏だけでなく、人形劇俳優の平常(たいら)じょうさんとのコラボ作品などで選曲＆音楽構成の担当としてもその手腕を発揮されて大活躍です。

平さんの新作「ロミオとジュリエット」も凄く楽しみにしています。

宮田 ありがとうございます、やっと選曲が終わりました！次作もどうかご期待ください。選曲の仕事が楽しいのは、ただ音楽的にそのシーンに合う楽曲を選ん

でいるだけでなく、作曲家がその作品を書いた背景やエピソードなどにも想いを馳せて考えられるからなのです。例えば今回の「デュオ・リサイタル」において後半の目玉となるショパンの「チェロ・ソナタ」は生前に発表・出版された最後の作品でもあり、そう思っただけで39歳という短い彼の生涯を自分も一緒に背負って弾いているような感覚で胸がいっぱいになります。

——挿話には事欠かない作曲家です。ね。「チェロ・ソナタ」はそこからピアノの詩人ではないショパンの作曲家としての新たな境地を切り拓く最初の作品となっていたかもしれません。

宮田 親友がチェリストだったこともあって、ショパンがチェロという楽器を愛していたのはこの作品からに違いないと僕も思っています。ただ、共演相手としてピアニストのことはいつも凄く気になります。チェロが朗々と弾いている傍らでピアノは音数も多いし、やはりショパンのことはピアニストに任せたい方がいい。ピアニストの数だけそれぞれのシヨパンがあるの、そこに自分も染められていくのを楽

しみたいのです。

福間 「チェロ・ソナタ」はピアノの技巧的にも難しい上に、込められた晩年のショパンの複雑な感情をどう紡ぎ出していくのかを試されているようなところがあります。初めて弾いたのは2021年で「フランスのチェリスト」エドガー・モローと。1月に大くんと初めて共演して、その数か月後の夏にエドガーとラフマニノフとショパンの「チェロ・ソナタ」の大曲2つを弾くという壮絶なプログラムでした。ラフマニノフの方をあらかじめ弾いておいて助かりました(笑)。2つとも同じ短調なので組み合わせの相性はいいけど、ところで、確か2022年にファンクラブのオンラインサロンに大くんがゲスト出演してくれた時、僕のファンから「ショパンのチェロ・ソナタをお二人に弾いて欲しい」とリクエストがあったのを憶えている？

宮田 憶えている！きつとエドガーと海外でやったから日本でも聴きたいと思ったんだ。やっとフ

——宮田さんもそろそろですね？

宮田 自分の場合はいくつかデビューの年にあたるのかを先ず考えないと：2009年に「ロストロポーヴィチ国際チェロコンク

——宮田さん、ありがとうございます。

宮田 ありがとうございます、やっと選曲が終わりました！次作もどうかご期待ください。選曲の仕事が楽しいのは、ただ音楽的にそのシーンに合う楽曲を選ん

められていくのを楽



[チェロ]宮田 大 [ピアノ]福間 洸太郎

ベートーヴェン：「魔笛」の主題による7つの変奏曲 変ホ長調 WoO 46/7
ベートーヴェン：チェロ・ソナタ 第2番 ト短調 Op. 5-2
ショパン：華麗なる変奏曲 op.12 (ピアノソロ)
ショパン：チェロ・ソナタ ト短調 op.65

2025.3/15(土) 2:00PM

全席指定 6,500円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニーホール チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

シンフォニア会員先行：9/19(木) 一般発売：9/22(日)

表裏一体の美しさと幻想 独特のショスタコーヴィッチを届ける

横坂 源 Gen Yokosaka

チェロ・リサイタル2025

Interview

はっとする瞬間、一生飽きることはない作品

——「悪魔のロマンス」をはじめ、ピアソラなどを奏でた今年のリサイタルとはガラリと雰囲気の違いがプログラムになります。演目について教えてくださいませんか。

いつもソナタを一つ軸に据えつつ、小品を並べるプログラムを組んでいます。ピアニストの沼沢淑音さんとは桐朋女子高校音楽科(男女共学)の同級生です。卒業後、ロシアで学び、ロシア音楽を肌で体感してきた友人です。ショスタコーヴィッチのソナタは、何度でもリハールを重ね、演奏してきた大切な作品ですので、ぜひ大阪の皆さんに聴いて欲しいと思い、選曲しました。

——ショスタコーヴィッチのソナタは、ご自身にとってどんな曲でしょうか。

彼の中ではロマンティックな作品と言えるのではないのでしょうか。演奏する度に新たな発見があり、色褪せることのない素晴らしい作品だと感じています。叙情的な民謡風メロデー、背後に潜む様々な要素が一体となり、制約を受けたワルツやロンドは奇妙に聞こえ始め、摩訶不思議な世界へと連れていかれるような魅力がありますね。

——小品はいかがでしょうか。

ドビュッシーの「月の光」など有名なものとあまり演奏されないけれど面白かったり、美しかったりする作品の両方を、バランス良くそろえたつもりです。シュニートケ、アザラシヴィリは、珍しいかもしれませんが、共にチェロの作品を多く書いている作曲家で、体にすっと入ってくる美しいメロディーがあります。知らないものも聴いていただいて、

何かを感じ、反応いただけるのはありがたいことと思っています。

温かみ実感、愛着あふれるホール

——ザ・シンフォニーホールには、どんな印象をお持ちですか。

温かみがあって、客席との距離を近く感じます。大きいホールにままだ、ステージ上でぼつんと取り残されている、という感覚がないんです。このホールには深い愛着が沸いています。大阪でも福島県隈は庭のようなものなのですが、道頓堀は少し前に初めて訪れたくらいです(笑)。このようなリサイタルの形でステージに立たせてもらうのは、私にとって夢のような時間です。

——この地でのリサイタルは横坂さんにとって、どんな意味を持っていますでしょうか。

2021年に初めて演奏したとき、このように続けてできることは想像していませんでした。毎年続ける中で、新しいものを聴いて欲しいとの思いも出てきました。ステージ上でしか得られないものは、たくさんあります。大きなホールでどんな響きを通せば、出したい音が具現化できるか。多くの学びがあり、少しずつ良くなってきていると実感しているところです。

(取材・文 最上聡)



「ピアノ」沼沢淑音

[チェロ]横坂 源 [ピアノ]沼沢淑音

ヘンデル：チェロ・ソナタ ト短調 / オッフェンバック：ジャクリーヌの涙
ファリャ：スペイン民謡組曲 / アザラシヴィリ：無言歌
バルトーク：ルーマニア民族舞曲 / シュニートケ：古い様式による組曲
ドビュッシー：月の光 / ショスタコーヴィッチ：チェロ・ソナタ ニ短調 op.40

2025.3/22(土) 7:00PM

全席指定 4,400円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

シンフォニア会員先行：9/19(木) 一般発売：9/22(日)

©Sotaro Goto

Ikuko Kawai Symphonic Concert

川井郁子

シンフォニックコンサート 2025

音楽舞台～源氏がたり～
& ヴァイオリンコンサート

ヴァイオリン 川井郁子

「ヴァイオリンの女神」が贈る、和と洋の唯一無二のマリアージュ

知性と情熱を備えた多彩な活躍から、「ヴァイオリンの女神」と称えられる川井郁子。2005年から大阪芸術大学の教授を務めることもあり、長年関西と縁の深い彼女の大好評シリーズ「シンフォニックコンサート」が、2025年も盛大に開催される。

作編曲家や女優の顔を併せ持つ川井は、和楽器や語りを織り交ぜた独創性豊かな音楽舞台を手がけることでも有名。今回はそんな彼女の代名詞のひとつで、林真理子の名著「源氏がたり」を原作に描いた「夕顔」を披露する。

「源氏物語」の幽玄な世界観の中、琵琶、箏、尺八、篠笛、笙、鼓などの和楽器の美しい音色に包まれ

て、光源氏に愛された、常夏の女。夕顔を川井が音楽と言葉で雅に演じる。

「一番大事なのはその音楽にとつて必然ということだと思ふんです。無理に頭で考えて割り振りをするのではなく、和楽器であることが100%自分にとって必要とすることが大事。和を要素とすることにとどまらず、和と洋を超えて一つの大きな音」とは、彼女がかつてインタビューで語っていた言葉だが、そんな唯一無二の総合芸術を今回も全身で堪能したい。

この「夕顔」はまた、フィギュアスケートの荒川静香が演技に使用。それがきっかけで、後に彼女のアイスショーに川井が出演することになった思い入れの深い作品で、「荒川さんの音から魂が乗り移ったかのようなゾクゾクする演技は忘れられません」とのこと。

思い入れの深さという意味では、今回同じく演奏予定の「ホワイ・レジェンド」も。チャイコフスキーの傑作3大バレエのひとつに数えられる「白鳥の湖」をモチーフにした秀麗な佳曲は、羽生結弦が長らく演技で使用していたことは周知の通り。川井は、「彼の表現は、私がこの曲をアレンジしたときに思い描いていた想像をはるかに上回る素晴らしいもので感動しました」と語っており、こうした相互

作用によって、録音よりもさらに磨かれ深みを増した本作の現在地に期待が高まる。

今回は他にも、「モルダウ」「アヴェマリア」「宵待の月」「ジブリ・メドレー」など、彼女の優美でノスタルジックな音楽性にこの上なくふさわしい名曲を多数演奏予定。このシリーズのタイトルになっている「シンフォニック」は「調和のとれた」という意味だが、音楽のジャンルや編成がこれほど多様でも、結果としてひとつの小宇宙を形作る。そんな「シンフォニック」の真骨頂をどうぞお楽しみに!!

(文 渡辺謙太郎)

[ヴァイオリン] 川井郁子

夕顔～「源氏物語」より～／モルダウ／ジブリ・メドレー／乱拍子・急の舞「道成寺」より／ブルーバード／アヴェ・マリア／ホワイレジェンド～「白鳥の湖」より～／祇園精舎「平家物語」より (ほか(予定))

2025.3/28 (金) 7:00PM

全席指定 S席 6,500円 A席 5,000円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

先行予約: 9/19 (木) 一般発売: 9/22 (日)

YUNDI *plays*
MOZART

THE SONATAPROJECT 1 Japan Tour

ユンディ プレイ モーツァルト
ピアノ・リサイタル「ソナタ プロジェクト1」

©Marco Borggreve

**5年ぶりの欧州公演「ロマンティックで繊細な演奏」でファンを圧倒!!
再び世界を席巻! 待望の日本ツアーが決定!**

——このツアーはモーターアルトにちなんで名付けられましたが、モーター

たいと考えています。

いですか？

この4つのソナタは、モーツァルトのソナタ作品の中でも最も代表的な作品であり、私がモーツァルトの世界に足を踏み入れた証として、モーツァルトの「ピアノ」創作の本質、音色の無限の変化、個性の変容、神性とドラマの表現、つまり音楽の最高の表現力を表しています。そういったところを楽しんでもらいます。

——この曲のどこを教えてください。さい。ファンにどう楽しんでもらいたいですか？

——ピアノの魅力について教えてください。

ピアノの魅力は、無限に変化する音を
通して、世界のあらゆるものの光景や
人間の知覚を伝えることができること
にあります。



第14回シヨパン国際ピアノコンクールの優勝者ユニディ---



——コンサートで一番気をつけていることは何ですか？

一番大事なものは、その場にいられることです。

——好きなモーツァルトの曲とその理由を教えてください。

モーツァルトのオペラ、特に魔笛、フィ

理由を教えてください。

モーツァルトのオペラ、特に魔笛、フィガロの婚礼、そしてもちろんピアノ曲の多くの作品は、彼の音楽がすべてを包み込み、非常に清らかな内面と精神世界を持っているので、私はとても好きな音楽です。

んだ理由を教えてください。

モーツァルトの作品は、音楽やピアノの文獻の中で最も緻密で複雑な音楽作品であり（シヨパンの作品と同様に）音楽家の音楽的センスや指の音色のコントロールが試されていると思うので、とて興味があり、新しいプロジェクトとしてモーツァルトを選びました。

——コンサートで一番気をつけていることは何ですか？

一番大事なのは、聴衆と一体化し、心から音楽の世界に入り込み、人とピアノが一体感を持てるようになることです。

ガ口の婚礼、そしてもちろんピアノ曲の多くの作品は、彼の音楽がすべてを包み込み、非常に清らかな内面と精神世界を持っているので、私はとても好きな音楽です。

——コンサートに来てくださるファン
の皆さんに一言！

久しぶりにお会いしましたが、このコ
ンサートでモーツァルトの音楽を皆さ
んと分かち合えることを楽しみにして
います。

ユンディ MOZART THE SONATA PROJECT 1 Japan Tour

モーツァルト:ピアノ・ソナタ 第11番 イ長調 K.331(トルコ行進曲付き)
ピアノ・ソナタ 第8番 イ短調 K.310/ピアノ・ソナタ 第14番 ハ短調 K.457
幻想曲 ハ短調 K.475 他

2024.10/3(木) 7:00PM SS 15,000円 S 13,000円(税込)

【お問い合わせ】キョードーインフォメーション 0570-200-888
(平日・土曜11:00~18:00 ※日・祝休み)

【主催】リパティ・コンサーツ 【共催】ザ・シンフォニーホール
【企画・制作・招聘】テイト・コーポレーション 【協力】ワーナーミュージック・ジャパン

発売中

珠玉のシネマ名曲 SELECTION vol.9

荒庸子
チェロ・リサイタル 2025

Interview

最高級のシネマ&クラシック音楽を、最高級の演奏と音響で!



関西大好きな演奏家が贈る、
映画から始まるクラシック入門！

ソコ、室内楽、オケ、社会貢献活動と、多岐に活躍するチェリスト・荒庸子の人気シリーズ「珠玉のシネマ名曲集 SELECTION」が9回目の開催を迎える。

今回は時代を限定せず、チャップリンやモリコーネなど、彼女が愛する映画音楽をセレクト。そんな「珠玉の」映画音楽を入口にして、優美極まりないサン・サーンス「白鳥」や、技巧的なポップ「ハンガリー狂詩曲」といったクラシック音楽も織り交ぜることで、こんな名曲もあるんだと知って欲しいという願いも込められている。

チャップリンは、「ライムライト」「スマイル」などを演奏予定。荒は彼に対する想いを次のように語る。



ピアノ 山田武彦

「チャップリンは、俳優や監督だけでなく、作曲まで手がけた、本当にマルチな天才。また、残された名言も多く、笑顔でいれば明日もきっといいことがある。や、人生はクローズアップで見れば悲劇だが、ロングショットで見れば喜劇だ」という言葉には何度も励まされました」

では、その聴きどころは

『ライムライト』は2003年発表のCD『想い出の映画館』の収録曲で、藤満健さんの編曲。J.S.バッハの前奏曲と組み合わせた素晴らしいアレンジなので、皆さんが晴らしいアレランジなので、皆さんが映画を観返すきっかけになれば嬉しいです。『スマイル』は今回も共演するピアニストの山田武彦さんの編曲。彼とは、私がアメリカ留学から戻ってからずっと共演しています。が、作曲科出身らしく、本当に即興的。今回も私が聴き惚れるような美しく新しい和音や前奏を聴かせてくれるはずですよ」

「ニュー・シネマ・パラダイス」「海の上のピアニスト」などを披露予定のモリコネにも、荒は深い愛を滲ませる。

「おなじみの郷愁的な音楽性は、聴き手も弾き手も過去の想い出を喚起させられます。また、彼の音楽はチェロと相性がよく、人間の声に近い音域で歌うように表現できるのです。今回の公演前に5年ぶりにモリコーネの母国イタリアの音楽

「ザ・シンフォニーホールの音響や聴き手を、「毎回山田さんと2人で弾いているとは思えない、温かくダイナミックな響きに助けられています。聴き手の集中力と熱気も凄まじくて、昔タクシーでお世話になった運転手さんにこのシリーズのチラシを渡したら本当に聴きにきてくださった時は本当に感動しました」と絶賛する荒。そんな聴き手と弾き手が相思相愛な公演に、今回も期待が高まる。

（取材・文 渡辺謙太郎）

[チェロ] 荒 庸子 [ピアノ] 山田武彦

チャップリン：ライム・ライト／スマイル／ウィリアムズ：シンドラーのリスト／モリコーネ：ニュー・シネマ・パラダイス／ショスタコーヴィチ：ロマンス／ピアソラ：エンリコ4世
〜アヴェ・マリア／モリコーネ：海の上のピアニスト／ひまわり／ゴッドファーザー／
ハーヴィッツ：ラ・ラ・ランド／サン＝サーンス：白鳥（ほか）

2025.3/29 (±) 7:00PM

全席指定 4,400円(税込)
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

先行予約：9/19（木） 一般発売：9/22（日）



プラスバンドとゴスペルの邂逅が巻き起こす年末の輝かしい奇跡！
名門オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ（Shion）とザ・シンフォニーホールの夢のコラボ。Shionの名手を中心に、関西の第一線で活躍する精鋭も多数加わり、舞台の全方向を埋め尽くすザ・シンフォニーホールスーパーブラス（TSHSB）が始動したのは2022年7月のことだった。
あまりの迫力と輝きに満ちたその唯一無二のサウンドは、通常のオーケストラよりも2〜3割増しになると言われ、しかもそれらの演奏は華麗極まるプロジェクトシンマツピングと共に繰り広げられるため、一度接したら虜になるファンが続出している。

そんな魅惑のシリーズを指揮するのは、ザ・シンフォニーホールの音楽監督、喜多弘悦。中学時代にブラスバンドで打楽器を始め、高校生の頃に来日したニューヨーク・フィルハーモニックの首席ティンパニストにレッスンを受けて、アメリカ留学を決意。ジュリアード音楽院に進学し、在学中は打楽器だけでなく、指揮や音楽理論も本格的に学んだ。帰国後に学生とプロ奏者の混成ビッグバンドを立ち上げたが、この時の同僚だったプロ奏者が、TSHSBの結成と運営に尽力してくれているそうだ。



THE SOULMATIC'S ディレクター
池末 信

そんなTSHSBが、2024年の年末にスペシャルコンサートを開催。共演は、日本有数のゴスペル歌手＆教育者で、喜多の長年の盟友でもある池末信が率いるゴスペルグループ、THE SOULMATIC'S（ザ・ソウルマティックス）だ。これまでに、ゴダイゴ、五木ひろし、長渕剛、平井堅、Kink Kids、三代目 J SOUL BROTHERS from EXILE TRIBE、Superfly、いきものがかりなどのツアーやレコーディングに参加。さらに、ミュージカル「レント」や「ビューティ

[指揮]喜多弘悦 [演奏]The Symphony Hall Super Brass
[ゴスペル]池末 信×THE SOULMATIC'S

クリスマス・キャロル／聖者の行進／翼をください／「天使にラブソングを」より「Joyful, Joyful」「Ain't no mountain high enough」「Oh Happy Day」ほか

2024. 12/29 (日) 3:00PM
全席指定 S 6,600円 (S 高校生以下(4~18歳)3,300円) A 4,400円(税込)
※4歳のお子様からご入場いただけます ※プロジェクトシンマツピング付き
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール

ル」にも出演し、現代ゴスペルのレパトリーは数百曲にも及ぶという。こつた輝かしい実績から、「黒人の声を持つ新しい日本人のグループ」として高く評価されるTHE SOULMATIC'Sと、我がTSHSBがタッグを組む今回の豪華な宴。予定演出には、クリスマスキャロル、「聖者の行進」「翼をください」「天使にラブソングを」など、年末にふさわしい華々しいナンバーがたっぷり並んでいる。ゴスペル、ビッグバンド、そしてプロジェクトシンマツピングが三位一体となってお贈りする最高級のエンタテインメントはすべての音楽ファンを心ゆくまで魅了することだろう！
(文 渡辺謙太郎)



ビッグバンドとポップオペラの出会いが生み出す新たな小宇宙！
ザ・シンフォニーホールの豊麗な音響と相性抜群なゴージャスなサウンドと変幻自在の超絶技巧に酔いしれる至福のひとつ。
2016年にトランペット奏者の菊池寿人を中心に結成され、ソロやバンドで活躍する国内有数の名手16名が集うスター集団、ザ・シンフォニーホール・ビッグ・バンド（TSHBB）が早いもので24回目の公演を行う。

毎回多彩なジャンルから超一流のミュージシャンをゲストに迎えることも大きな魅力になっているTSHBB。今回は、ポップスとオペラの歌で歌唱を行ったり、フィギュアスケートのアイスショーに度々出演したりと、縦横無尽に活躍を続けている。今回はそんな彼の代表曲を惜しげもなく披露。
'08年のデビュー・シングル作品で、ロシアのボロディンの傑作オペラを原曲に持つ「ダッタン人の踊り」は、ポップスとオペラを組み合わせる藤澤の音楽性を味わうのに最も適した佳曲のひとつと言えるだろう。

他にも、犬を愛する人々とのMV共創プロジェクト「いえす・わん・どう！」から生まれた楽曲で、MVには総勢50組を超える愛犬家と愛犬が登場したことも話題になった「Yes I do -キスはまだ終わってない」。

[演奏]The Symphony Hall Big Band
[スペシャルゲスト]藤澤ノリマサ（シンガー・ソングライター）

ダッタン人の踊り／希望の歌～交響曲第九番～／Yes I do -キスはまだ終わってない～／brightness (NHKラジオ深夜便「深夜便のうた」)／Fly me to the moon／Smoke get's in your eyes／Volare／シング・シング・シング ほか

2024. 12/16 (月) 7:00PM
全席指定 7,500円 18歳以下3,300円(税込)
[お問い合わせ]大阪アートエージェンシー 06-6372-4583
[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

そして、ベートーヴェンの交響曲第9番をモチーフに、Aメロ&Bメロで独自に味つける藤澤らしい手腕も存分に発揮。笑顔と希望に満ちた未来への願いを高らかに歌った大作「希望の歌」交響曲第九番。これらの作品はビート感の強いシンセサイザーを主体としたサウンドと共に颯爽と歌われているが、今回のTSHBBとの共演は、ブラス、ピアノ、ベース、ドラムの編成なので、どのようなアレンジが施され、それによって藤澤の歌声や作品自体に秘められていた新たな魅力がどう花開くかに期待大。絢爛豪華なポップオペラの宴をくれぐれもお聴き逃しなく！
(文 渡辺謙太郎)

PHILHARMONIX

Wien = Berlin

フィルハーモニクス ウィーン=ベルリン



NOAH BENDIX-BALGLEY

ベルリン・フィルのノア・ベンディックス＝バルグリーが語る
フィルハーモニクスウィーン＝ベルリン



[ヴァイオリン] ベルリン・フィル第1コンサートマスター

ノア・ベンディックス＝バルグリー

Interview



ウィーン・フィルとベルリン・フィルの両方を中心とした7人のアンサンブル、フィルハーモニクスウィーン＝ベルリン。その第1ヴァイオリン奏者であり、ベルリン・フィルのコンサートマスターであるノア・ベンディックス＝バルグリーが7月にNHK交響楽団と共演するために単身来日したのを機に、12月のフィルハーモニクスウィーン＝ベルリンの大阪公演について聞いた。

——ベルリン・フィルのコンサートマスターとして多忙なノアさんがどうしてフィルハーモニクスに参加されるようになったのですか？

ベルリン・フィルでの同僚である、チェロのシュテファン・コンツに誘われました。私のメインの仕事はベルリン・フィルのコンサートマスターですが、ソロ、室内楽、そして、クラシック以外の音楽にも興味があり、いろいろな音楽を楽しみたいと思って、フィルハーモニクスに参加することにしました。フィルハーモニクスでは、クラシック音楽

でない音楽でもモーツァルトやベートーヴェンに向かうのと同じアプローチで真剣に取り組めます。そうすると新しい発見があります。様々な音楽で即興的で驚きのある音楽作りをしているので、フィルハーモニクスとのツアーからベルリンに戻ってきて、ベルリン・フィルでベートーヴェンやブラームスを弾くと、自由さや自発性が増していることにフィルハーモニクスの影響を感じますね。

クラシックの名曲もその他のジャンルの曲も自分たちの音楽として演奏

——フィルハーモニクスのレパートリーについて教えてください。

2つのヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、コントラバス、クラリネット、ピアノという特殊な編成ですから、既成のものはないので、すべて新たに自分たちのためにアレンジしたり、作曲したりしています。クラシックから民族音楽、ポップス、ジャズ、映画音楽までを、私たちがけの音楽にアレンジし直し、レパートリーは150曲くらいあります。

主に、チェロのシュテファン・コンツと第2ヴァイオリンのセバスティアン・ギュルトラーがアレンジを担当していますが、私も自分の好きなユダヤ系の音楽はアレンジします。クラリネットのダニエル・オッテンザマーはスウィングが好きなのでそういうレパートリーを手掛け、ハン

ガリー出身のコントラバスのエーデン・ラーツはハンガリー系のジプシー音楽を、ヴィオラのティロ・フェヒナーは自分の好きな音楽を持ってきます。プログラム全体はダニエルが考えることが多いです。

——ノアさんはクレズマー（東欧のユダヤ系音楽）がお好きなのですね。私のバックグラウンドがユダヤ系の家庭で、父は民族舞踊のスペシャリストでした。私も子供の頃からそういう音楽が大好きでした。

ウィーン・フィルとベルリン・フィルの精鋭たちが集結

——ウィーンとベルリン、それぞれで活動しているメンバーが集うのはたいへんではないですか？

みんな忙しい中、ウィーンのコンツェルトハウスとベルリンのフィルハーモニーでの年4回の定期演奏会をベースとして、1シーズンで必ず25回〜30回はコンサートをするようにしています。ここでやっている音楽が大好きですし、みんな仲がよいのです。

——昨年は、ヴィオラのティロさんの奥様である中谷美紀さんを朗読に迎えて、新しい「動物の謝肉祭」を演奏されましたね。

あれは特別なプロジェクトでした。フィルハーモニクスは、普通はゲストを招かないのですが、

ティロの発案で、フィルハーモニクス版の「動物の謝肉祭」を披露することができました。

大阪公演はクリスマス・プログラム

——12月のプログラムについて教えてください。

今回はクリスマス・プログラムを披露します。クリスマス音楽と言っても、世界中に、それぞれの文化や伝統を反映させているいろいろなものがあります。ハンガリー、ドイツ、ユダヤ、ラトヴィア、ジャズなどを取り交ぜたクリスマス音楽でホリデー・シーズンを祝います。

——ザ・シンフォニーホールへの印象はいかがですか？大阪での思い出はありますか？

7月13日にザ・シンフォニーホールでNHK交響楽団とシベリウスのヴァイオリン協奏曲を共演しました。ザ・シンフォニーホールは、音響と雰囲気素晴らしく、大好きなホールです。フィルハーモニクスにもびつたりだと思えます。また、大阪にはベルリン・フィルとも訪れたことがあります。近くでは、ズビン・メータの指揮で演奏しました（2019年11月）。

——12月のコンサートに向けて、メッセージをお願いします。

12月に日本に帰ってくるのがとても楽しみです。みなさんとクリスマス



（取材・文 山田治生）
（通訳 貴名由花）

[管弦楽] フィルハーモニクス ウィーン=ベルリン

《世界のクリスマス》

H.マーティン/R.フレイン (S.ギュルトラー編): メリー・リトル・クリスマス

N.ベンディックス＝バルグリー: ハヌカ

S.ギュルトラー: バルチック クリスマス

S.コンツ: ハンガリーのクリスマス

J.フェリシアーノ (S.ギュルトラー編): フェリス・ナヴィダ

坂本龍一: 戦場のメリークリスマス ほか

2024.12/12 (木) 6:30PM

全席指定 S 8,000円 A 7,000円 B 6,000円(税込)

[お問い合わせ] キョードーインフォメーション 0570-200-888

[主催] 関西テレビ放送/キョードー大阪/電通/びあ/ザ・シンフォニーホール

発売中

2024年のしめくりは、
希代の歌姫の清らかな美声で



砂川涼子

Ryoko Sunakawa

ソプラノ・リサイタル

アヴェ・マリア
Ave Maria

Interview

© キセキミチコ



リサイタルでもグノーやルツツイの《アヴェ・マリア》を取り上げる予定です。また《星に願いを》などのクリスマスソングも歌います。

新たな挑戦、ムゼッタのアリア《私が街を歩けば》

—— 砂川さんはオペラでもご活躍で、この1月に初めて挑戦されて好評を博した《ファウスト》から、マルグリットのアリアも歌われるので楽しみです。

《ファウスト》は藤原歌劇団の90周年記念公演でした。今回とりあげるアリア《宝石の歌》はかわいらしい曲ですが、マルグリットは、しっかりとした声の役柄で、フィナーレに向けてドラマチックに進んでいくオペラです。私はこの役は自分の声にとってもあっていると感じています。フレーニやスコットのようなりりこの声に合うといってもいいでしょうか。舞台で一度全曲を歌っていますので、のびのびと歌えて新しい表現ができますね。私はフランスオペラのリリコのレパートリー、たとえば《ホフマン物語》とか《カルメン》などと相性がいいと思います。また今回はプッチーニの《ラ・ボエーム》のムゼッタのアリア《私が街を歩けば》も取り上げます。勉強はしていたのですが、舞台では歌ったことはないのです、新しい挑戦ということになります。

ザ・シンフォニーホールにご出演いただきましたが、今回は副題を「クリスマスからの贈りもの」と題して、この季節にぴったりのプログラムが組まれていますね。

沖縄の宮古島出身ですので、冬でもハイビスカスの花が咲いていたりしますから、クリスマスらしいイルミネーションを楽しんだり、季節感をより感じるようになったのは、武蔵野音大に進学して上京してからですね。クリスマス頃は、歌手は忙しいことが多いので、私自身は特別なことはないのですが、年末の時期に大阪の皆様に足を運んでいただけるのはとてもうれしいですね。2020年に「アヴェ・マリア」というテーマで歌いましたが、その際にいろいろな《アヴェ・マリア》の作品があることがわかり、プログラムに組み込みました。24年の

「日々の積み重ねがとても大事だと思いますので、毎日を丁寧に過ごそうに心がけています」。デビュー以来、名実ともに日本を代表する歌手として長く舞台に立ってきたソプラノの砂川涼子。声の調整はだれにとっても難しく、才能があっても安定したキャリアを築くことができる歌姫たちが少ないなか、「ずっと声を保ち続けて歌える秘訣は？」という問いに、笑顔で右記のように答えてくれた。思わずこちらにも、見習わなければならない気持になった。遠方からもファンが足を運ぶ砂川涼子の演奏会は、ザ・シンフォニーホールでも高い人気を誇ってきた。12月20日開催の年末のリサイタルは、3度目になる。

12月ならではのテーマは「クリスマスからの贈りもの」

—— 2020年、21年と年末に

—— ピアノは何度も共演されている仲田淳也さんですね。

仲田さんは指揮者でもあるのですが、指揮もされるピアニストはとても独特で、歌を導いて、ひたひたしてくれるように感じます。最新盤のディスクでも、指揮者の園田隆一郎さんにピアノをお願いしました。今回はクリスマスがテーマなので、仲田さんと何かメドレーのようなサプライズを用意しようかと相談中です。仲田さんが楽しいクリスマスの仮装をするかもしれませんよ。

心躍るクリスマスのひと時を一緒に！

—— ザ・シンフォニーホールには何度も出演してくださっていますが、ホールの印象、そしてリサイタルを楽しみにされているお客様についてはいかがですか。

ささやくような声もホールがしっかり拾ってくれる、大変歌いやすい空間で、とても好きな響きです。歌曲のテクニックをしっかりと



「ピアノ」仲田淳也

[ソプラノ]砂川涼子 [ピアノ]仲田淳也

《クリスマスの贈り物》

ルツツイ：アヴェ・マリア/グノー：アヴェ・マリア/A.L.ウェッバー：ピエ・イエズ／モーツァルト：アヴェ・ヴェルム・コルプス／リー・ハーライン：星に願いを／ロルフ・ラヴランド：ユー・レイズ・ミー・アップ／グノー：歌劇「ファウスト」“宝石の歌”／プッチーニ：歌劇「ラ・ボエーム」“私が街を歩けば” 他

2024.12/20(金) 7:00PM

全席指定 4,400円(税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

りと伝えてくれますし、ホールにお任せすれば大丈夫という感じでしょうか。関西のお客様はほんとうに楽しんでくださるので、私も素敵な時間を一緒に過ごすのを心待ちにしております。演奏会の前は少々あわただしいですが、以前乗ったタクシーの運転手さんが「大阪は海鮮も美味しいですよ」と言われていたので、美味しいものもいただけたらいいですね。私が出演しているオペラと比べると、リサイタルは客席が明るいので、少し緊張もしますが、どなたでも楽しめる選曲なので、ぜひ年末の華やかなひと時をリラックスして満喫いただけたら、うれしく思います。(取材文 伊藤制子)



オペラを彩る花形は、テノール、ソプラノといった高い声域の歌手だが、こういった役柄を輝かせるのに、バリトン、バスなど低声の歌手の支えは欠かすことはできない。1989年にアレリーナ・ディ・ペローナの引つ越し公演で来日して以来、日本の聴衆に親しまれ、また数多くの弟子も育てたイタリアの名バスのフランチェスコ・ダルテーニャ。来日35周年を記念したコンサートが、テノールの樋口達哉、秋川雅史、そしてソプラノの小川里美という豪華な顔ぶれで開催される。

—— 樋口達哉さん、小川里美さんは、オペラの主役を担う歌手でいらっしゃると思いますが、低い声の魅力について教えてください。

樋口 実は武蔵野音大の三年まではバリトンでしたので、様々な低声のレパートリーを歌っていました。今はテノールですが、脇を固める低い声があつてこそテノールですね。男の色気、威厳を感じさ

せるバリトンやバスは、すべての男声歌手にとって、憧れの存在ではないでしょうか。

小川 バス・バリトン歌手の高橋啓三先生に師事していたので、低い声は身近な存在でした。私も元はメソソだったのですが、低い声の歌手は女声にとっても大変頼りになる心強い存在で、劇の要になると思います。素晴らしいバリトン、バスとご一緒だと、安心感がありますね。



オペラ歌手として、教師として、ダルーニャの素顔

—— お二人ともダルーニャさんに師事された愛弟子だと聞かれています。が、歌手として、教師としてもどんな方なのでしょう。

樋口 実は今もずっとと師事しているんですよ！もう20年以上

《千の風になつて》で知られるテノールの秋川雅史も待望の共演！

—— 今回はテノール歌手の秋川雅史さんも出演されますね。

樋口 実はアッキー（秋川さん）とは何度も共演しています。《千の風になつて》で国民的スターになりました

たけれど、《カルメン》のホセを自身の企画で歌っていますし、大変研究熱心でオペラにもとても意欲的です。今回はブッチーニ没後100年なので、プログラムは、ブッチーニのオペラからの名アリアの数々が組まれています。何か彼ともデュオができたなら、と考えているところなんです。

小川 私はアッキーとは、オーケストラ・アンサンブル金沢の公演で共演しました。彼はフランチェスコとは今回が初対面だと思います。アッキーとフランチェスコが刺激し合い、化学変化が起ころのかもしれないですね。

今年のクリスマスは、オペラの醍醐味を堪能していただきたい

—— この豪華な饗宴を楽しみにされているファンの皆さんにメッセージをお願いします。

樋口 フランチェスコ、そしてアッキーの歌唱はもちろん、声に深みがあり、舞台姿もとりわけ魅力的な小川さんの豊かな表現力のある歌にもぜひご注目ください。ザ・シンフォニーホールでは「カウントダウンコンサート2022」2023で歌わせていただきましたが、素晴らしい雰囲気と大阪ならではのお客様とのよさがとても印象に残っています。コロナ禍も終わり、いよいよ我々音楽家の出番なのです！オペラに詳しい方もそうでない方も、すべての方

[バス]フランチェスコ・ダルテーニャ [ソプラノ]小川里美
[テノール]樋口達哉、秋川雅史 [ピアノ]藤原藍子

ブッチーニ：歌劇『トスカ』より 妙なる調和
ブッチーニ：歌劇『トゥーランドット』より 誰も寝てはならぬ
ブッチーニ：歌劇『蝶々夫人』より ある晴れた日に
ヴェルディ：歌劇『リゴレット』より 女心の歌
ヴェルディ：歌劇『ドン・カルロ』より 一人寂しく眠ろう ほか

2024.12/24 (火) 7:00PM
全席指定 S 8,800円 A 6,600円 B 4,400円 (税込)
[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催] 一般社団法人GOSMAC / ザ・シンフォニーホール

発売中

が楽しみたいだけ出る思い出深いコンサートになると思います。

小川 今回の公演で、オペラの黄金時代の魅力をぜひ堪能ください。樋口さんは日本を代表するテノールですが、まさにスターになるべくしてなられた方です。ご一緒できて大変光栄です。皆様には樋口さんの素晴らしい歌唱も満喫していただきたいと思います。公演日はクリスマススイブなので、大阪の街もいっそう素敵な雰囲気になることでしょう。ぜひこの時期ならではの華やかさとともに、声の饗宴を楽しんでいただきたいですね。私もザ・シンフォニーホールで歌うのを楽しみにしています！

(取材文 伊藤制子)

来日35周年記念コンサート フランチェスコ・ダルテーニャ



[バス]
フランチェスコ・ダルテーニャ



[ソプラノ]小川里美
©Taira Tairadate



[テノール]樋口達哉
©Taira Tairadate



[テノール]秋川雅史

イタリアオペラのレジェンドと
日本のオペラスターたちの共演

小川里美 & 樋口達哉 Interview

SATOMI OGAWA



© 鈴木久美子

TATSUYA HIGUCHI

歴史的瞬間を一緒に！
名匠ダルテーニャとスター達によるベルカントの宴

オールスター 紅白 オペラ 歌合戦 2024



[メゾソプラノ]

十合翔子

Interview

Shoko Sogo

関西クラシック界、

師走の風物詩「紅白オペラ歌合戦」はチケット好評発売中!

世代や団体の壁を越えて、関西所縁の実力派オペラ歌手が、今年も師走のザ・シンフォニーホールに集結。紅白に分かれて、数々のオペラアリアを歌います。新進気鋭のメゾソプラノ歌手 十合翔子さんに、この歌合戦の魅力や聴きどころを伺いました。

——「紅白オペラ歌合戦」には2度目の出演ですね。初めて出演された時はいかがでしたか。

私は神戸市出身ですが、大学を卒業してすぐに新国立劇場オペラ研修所に入ったため、東京での生活が中心になりました。関西のオペラ団体に入っていない私に出演依頼を頂いたのは2022年のことで、大きな喜びであったと共に、見ていて下さる方がいるのだなど大変励みになりました。憧れのザ・シンフォニーホールに初めて楽屋口から入りステージに立ったときの景色は、いつも客席から眺めていたそれとは違い感動しました。また、学生時代からお世話になっている先生方の演奏を舞台袖から聴いていることが不思議で、感慨深かったのを覚えています。

——前回は独唱でしたが、今回はR・シユトラウスの歌劇「薔薇の騎士」から、第三幕の三重唱です。

前回は憧れのステージで「セヴィリアの理髪師」のロジーナのアリアを歌わせていただけて幸せでした。

今回は「薔薇の騎士」のオクタヴィアン役で出演し、本編の中でも有名な感動的な「三幕の三重唱」を歌います。この曲は、オペラの第三幕に至るまでのドラマを歌唱から感じていたかなければいけません。オクタヴィアンはいつか演じてみたい役の一つです。今回初めて一緒にする高嶋優羽さんと水野智絵さんは、関西二期会と堺シティオペラを代表するソプラノ歌手のお二方。団体の枠を超えた三重唱が、どのような化学反応を生み、お客様にお届けできるのか。先輩歌手お二人の胸をお借りして、全力で臨みます。

——この「歌合戦」の魅力は何でしょうか。

やはり私としてはメゾソプラノ歌手が6人も出演することに触れずにはいられません。一つの演奏会にこれほどのメゾが集うことは稀だと思えます。また、それぞれ最近出演した記憶に新しい役ではなく、捻りの効いた配役もこの歌合戦ならではの、お楽しみいただけるのではないのでしょうか。出演者にとっても1年の締めくくりとなる演奏会、和やかな中にも良い緊張感が漂う華やかな会となると思います。

——十合さんは将来どのような歌手を目指されていますか。

メゾソプラノは様々な役柄を歌

える声種です。年齢・性別を超えて多岐に渡るキャラクターを演じられることは大きな魅力であり、私にとっても喜びのひとつです。今は自分の楽器とも言えるべき、声を日々しっかりと育て、技術を磨き、人生経験を積んで出来る限り引き出しを増やしていきたいです。そして物語を描く登場人物の一人として、生き生きと舞台上に存在できたなら、これほど幸せなことはないと思います。

よく、ホールは楽器と言われますが、ザ・シンフォニーホールは音の響きや分離の良さに加え、聴きやすく観やすい世界有数の楽器です。このステージで歌えることは歌手冥利に尽きます。最高のサウンドを体験しに、ザ・シンフォニーホールにお越しください。

(取材文 磯島浩彰)

[紅組] 齊藤言子、高嶋優羽、西田真由子、野々村瞳、畑友実子、水野智絵、四方典子、伊藤絵美、大賀真理子、十合翔子、田中友輝子、堀口莉絵、山際きみ佳

[白組] 田中 勉、秋本靖仁、小餅谷哲男、近藤勇斗、松本薫平、水口健次、伊藤友祐、下林一也、中野嘉章、西尾岳史

[指揮] 栗辻 聡 [管弦楽] 大阪交響楽団

2024.12/26 (木) 6:30PM

全席指定 S 8,800円 A 7,700円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール [共催] 公益社団法人 大阪交響楽団

[後援] 一般社団法人日本クラシック音楽事業協会

発売中

THE KING'S SINGERS

ザ・キングズ・シンガーズ コンサート

CONCERT

©FrancesMarshall



男声ア・カペラのレジェンドが至上の声を響かせる
 結成から半世紀超、メンバーを入れ替えながらも6人の編成を保ち、男声ア・カペラ・アンサンブルの世界最高峰として君臨する「ザ・キングズ・シンガーズ」。レジェンドのザ・シンフォニーホールへの2年ぶりの登場が、間近に迫っている。

1979年の初来日から45年。英国からの発信で世界を魅了し続ける中、その後も定期的に来日し、澄みわたる純正なハーモニー、多彩な技巧で、従来の重唱の概念を超えて声楽の奥深さを知らしめてきた。今回、独自にアレンジを手掛けた「ディズニーソング」の数々を披露する。ディズニー創立100周年記念の昨年、記念のアルバムがリリースされた。「白雪姫」から「リメンバリー」まで、ジャズやポップスのスタンダードナンバーにもなっているものも多い名曲ぞろい。一方、ルネサンス時代のウィリアム・バードやトマス・ウィールクスのイギリス歌曲、ビートルズも取り上げる。計2000曲以上とされるグループの年代・ジャンルを超えたレパートリーの幅広さも体感できるコンサートになるだろう。

声は柔軟性が高く、さまざまな表現を可能とする至上の楽器……。そんな言葉を実感させてくれる、上品で洗練された魅力あるステージを大に期待したい。

(文 最上聡)

[コーラス]ザ・キングズ・シンガーズ

《世界の歌曲とビートルズの音楽》ウィリアム・バード諸々の異邦人よ、主をほめまつれ／ウィリアム・バード：この心地よく楽しい五月／トマス・ウィールクス：おお主よ、われらが王に長き命を／トマス・ウィールクス：トゥーレの国、地誌の時代／宮野よう子：花は咲く／日本民謡：竹田の子守歌／ビートルズ（レノン＝マッカートニー）：ペニーレイン／ビートルズ（レノン＝マッカートニー）：イエスタデイ／ビートルズ（レノン＝マッカートニー）：オブ・ラ・ディ、オブ・ラ・ダ

《ディズニーの名曲たち》『白雪姫』より「いつか王子さまが」／『ライオンキング』より「愛を感じて」／『リロ&スティッチ』より「アロハ・エ・コモ・マイ」／『リメンバリー』より「リメンバリー」／『ピノキオ』より「星に願いを」／『メリー・ポピンズ』より「スーパーカリブラジリスティックエクスピアリドーシャス」

2024.10/17 (木) 7:00PM

全席指定 S 10,000円 A 8,000円 B 6,000円 (税込)

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール ※やむを得ず曲目が変更になる事がございますので予めご了承下さいませ。

発売中

清水和音

ピアノ・リサイタル

Kazune Shimizu Piano Recital

©Yuji Hori



名匠の公演迫る！華麗なるピアノリズムに堂々たる風格が加わった円熟の音楽

いまの日本のピアニストでは数少ないどっしり構えた重厚な音楽づくりで、近年ますます深みを増している清水和音。センセーショナルな話題になった1981年、弱冠20歳でのロン＝ティボー国際音楽コンクールでの優勝直後は、テレビで密着ドキュメンタリーが作られるなどアイドル顔負けの人気だったが、それから40有余年。いまだにさまざまなオーケストラの定期演奏会に招かれるような第一線での活躍を続けているのはほんとうにすごいことだ。ザ・シンフォニーホールにもソロだけではなく、協奏曲や室内楽も含めたたびたび登場したが、今回はパンデミックを経て、大阪では実に10年ぶりの待望のリサイタルとなる。冒頭に弾かれるレスピーギの組曲は、有名な「シチリアーナ」などオーケストラで演奏される作品だが、これはとても珍しい作曲者編曲によるピアノ独奏版で、6曲が選ばれた。全曲演奏も行い、長年弾き込んでいるベートーヴェンは、本人も最高の作品と語る深遠な傑作ソナタ「第32番」。「展覧会の絵」も2度目の録音が決定盤として高い評価を得ているものだ。いよいよ円熟期を迎えつつある名ピアニストの現在地、華麗で多彩なプログラムをお聴き逃しなく！

(文 城間勉)

[ピアノ]清水和音

レスピーギ：リュートのための古風な舞曲とアリアより 小舞曲〈オルランド伯爵〉、ヴィツラネッラ、ガリアルダ、イタリアーナ、シチリアーナ、パッサカリア
 ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第32番 ハ短調 Op.111
 ムソルグスキー：展覧会の絵

2024.11/10 (日) 2:00PM

全席指定 6,000円(税込)

【お問い合わせ】キョードーインフォメーション 0570-200-888

【主催】PROMAX／朝日新聞社／ザ・シンフォニーホール

発売中



日本デビュー20周年を迎えた福岡光太郎による「ストーリーーズ」と題したリサイタルの後半は、管弦楽曲の編曲作品が演奏される。前号に続くインタビュー後編では、これらの曲に込めた想い、ザ・シンフォニーホールの思い出を語る。

——後半はワーグナーのオペラ「トリスタンとイゾルデ」、ドビュッシーの「牧神の午後への前奏曲」、スメタナ「モルダウ」と管弦楽曲のピアノ編曲作品が並びます。

「モルダウ」は、私の名前の光の字に由来するテーマ「シマリング・ウォーター（煌めく水）」に関連する、

20周年で必ず弾きたかったレパートリーです。この曲は、私も多くのみなさんと同じく学校の授業で聴いて知りましたが、当時は特別関心がありませんでした。でも以前、ある大阪の公演でリクエストされたことをきっかけに編曲して弾いたら、世界に通じる特別な郷愁を改めて感じ、大切な作品になりました。加えて自身で編曲した「トリスタンとイゾルデ」、初めて公で披露する「牧神の午後への前奏曲」を演奏しますが、ここに

は愛と死というテーマが隠されています。大スケールの曲で、前半のシヨパンとは違う角度からピアノの可能性を引き出すことに挑みます。

——ザ・シンフォニーホールでは、昨年の「熱狂コンチェルト」をはじめ何度か演奏されています。印象はいかがですか？

初めてこの舞台に立ったのは10年前の2014年、ヘルマン・ゲッツのピアノ協奏曲第2番を演奏するという、レアで興味深い経験をしました。その次はコロナの影響で全てがストップした後、収容人数の半分で演奏会が再開できるようになった2020年7月のこと。ベートーヴェンイヤーということで三大ソナタを取り上げました。印象に残るのは、久しぶりの演奏会だからと聴きにきた母が、ピアノシモか

初めてこの舞台に立ったのは10年前 大阪の熱いお客様が大好きです

福岡光太郎

Interview
後編

Kotaro Fukuma

日本デビュー20周年記念

ピアノ・リサイタル *Stories*
ストーリーズ

——最後に、大阪のお客様にメッセージをお願いします。

大切な作品を、素晴らしいザ・シンフォニーホールで聴いていただけることを嬉しく思います。ステージに出た瞬間、待ってました！という雰囲気であってくださる大阪の熱いお客様のことが、私は大好きです。この演奏会がみなさんにとって良い思い出になることを願っています。（取材・文 高坂はる香）

らフォルティシモまですごくきれいに響いていて感動したと話していたこと。普段あまり感動しなかったのに、なにか特別な雰囲気があったのだらうと思いましたね。スケールの大きな作品も100%の熱を入れて弾ける気持ちが良いホールで、とても好きです。

[ピアノ]福岡光太郎

《ストーリーーズ》

ショパン：ポロネーズ 第6番 変イ長調 op.53「英雄」／ソナタ 第2番 変ロ短調 op.35「葬送」／ポロネーズ 第7番 変イ長調 op.61「幻想ポロネーズ」／ワーグナー：楽劇「トリスタンとイゾルデ」より前奏曲（福岡編曲）、イゾルデの愛の死（リスト編曲）／ドビュッシー：牧神の午後への前奏曲（ボルヴィック編曲）／スメタナ：「わが祖国」より「モルダウ」（福岡編曲）

2024.10/19（土）2:00PM

全席指定 S 4,500円 A 4,000円（税込）

【お問い合わせ】ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

【主催】ザ・シンフォニーホール

発売中

©Shuga Chiba

撮影協力：
スタインウェイ&サンズ東京



幻想とユーモアの奥に広がる
深淵な世界を探る

丸く豊かな音色と、伸びやかでダイナミックな演奏だけ聴いていたら、上原彩子が実は華奢な女性だということは想像しにくいかもしれない。彼女は、小学生の頃からロシアの名教師、ヴェラ・ゴルノスタエヴァのもとで学び、多彩で豊かな音を鳴らすテクニクを身につけた。そして2002年、女性として、日本人として初めてチャイコフスキー国際音楽コンクールピアノ部門で優勝し、以来、第一線で活動しながらさらに三人の子供を育てるという、パワフルなピアニストだ。

ザ・シンフォニーホールではお馴染みの存在といえる彼女。得意のロシアものを中心に多彩なプログラムを披露してきたリサイタルや、人気公演の「熱狂コンチェルト」で、たびたびその舞台に立つてきた。そんな上原が今年11月のリサイタルで大阪の聴衆に届けるのは、「幻想とユーモアの奥に広がる深淵な世界」を探ることをテーマに選んだという、ベートーヴェンとシューマンによる、ドイツ音楽プログラム。

今年3月から、8年にわたるベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲演奏会に取り組む彼女。改めて真剣に向き合うベートーヴェンのピアノ・ソナタから、前半に中期に差し掛かる頃の第17番「テンペスト」、後半に20代で書いた初期の第7番を取り上げる。併せて演奏するシューマンは、上原が以前から大好きな作曲家だといひ、前半に「幻想曲」、後半に「謝肉祭」が置かれている。

このプログラミングで彼女は、前半に「無限に続く幻想的な空間」を、後半に「ウィットに富んだ時間」を生み出すことを意図しているという。確かに改めて見ると、ドイツの古典派からロマン派に移行していく時代を生きた二人の作曲家を交互に並べることで、それぞれの作曲家にとってのファンタジーの方向性、ユーモアの感性について、違いや共通点が浮き彫りになりそうな内容だ。上原によれば、さらにそこには「暗い世界、無に繋がっていくような世界」も共存しているというので、おそらくこの日の彼女は、この曲順だからこそ描き出せる深みや複雑さをステージ上で探

り、見つけた答えを聴衆と共有してくれるだろう。

聴き手に考える機会を与えてくれるプログラムは、魅力的だ。今回の上原が選んだのは、まさにそんなプログラムで、ベートーヴェンに集中して取り組むことを決めた今の心情を反映したものなのかもしれない。

聴き終えたときどんな感情が残るのか、卓越したテクニクで紡ぐ集中度の高い音楽に身を委ねてみたい。

(文 高坂はる香)

[ピアノ]上原彩子

ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第17番 二短調 op.31-2 「テンペスト」
シューマン：「幻想曲」 ハ長調 op.17
ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ 第7番 二長調 op.10-3
シューマン：「謝肉祭」 op.9

2024.11/4 (月・休) 2:00PM

全席指定 5,000円(税込)

[お問い合わせ] ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333

[主催] ザ・シンフォニーホール

発売中



**2025年も、本場からやってくる
極上のエンタメで年明け！**

2023年の新春を映画音楽で彩ったあの名門オーケストラ（スター集団）が2年振りにザ・シンフォニーホールに還ってくる。前回好評だった『風と共に去りぬ』や『慕情』などの懐かしの名画テーマや（ムー・ン・リバー）に代表されるオードリー・ヘプバーン出演作の世界に加えて、今回は『ジュラシックパーク』など超大作の壮大な主題曲を拡充。目玉は監督・俳優だけでなく作曲家としてもマルチに活躍した巨匠チャールズ・チャップリン特集。労働者を非人間的に扱う機械文明に抗い、個人の幸福を求める生き方を描いた『モダン・タイムス』（1936年）から生まれ、ジャズのスタンダード・ナンバーとしても人気を博した名曲（スマイル）の持つポジティブなメッセージは新しい年の初めに相応しい。ヒトラーとファシズムを痛烈に皮肉った1940年公開の『独裁者』からは床屋での髭剃りの場面に使われたあのブラームスの名曲「ハンガリー舞曲 第5番」が登場する予定なので、こちらはぜひYouTubeなどで今すぐチェックして公演日まで楽しみに待つのおすすめしたい。指揮と編曲を手がけるのはもちろん凄腕ロイド・バトラー。各地を熱狂させてきたビリー・キングの名唱も再びお聴き逃しなく！（文 東端哲也）

[指揮]ロイド・バトラー [ゲスト歌手]ビリー・キング
[管弦楽]ハリウッド・フェスティバル・オーケストラ

《懐かしの名作》風と共に去りぬ／慕情／ロッキーマン（ハリウッド大作）インディ・ジョーンズ／ミッション・インボッシーブル／ジュラシック・パーク／タイタニック 《オードリー・ヘプバーンの世界》ローマの休日／シャレード／『ティファニーで朝食を』より「ムー・ン・リバー」《チャップリン名曲集》「モダン・タイムス」より「スマイル」／「独裁者」より「ハンガリー舞曲第5番」ほか予定

2025.1/10（金）7:00PM
全席指定 S 10,000円 A 8,000円（税込）
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中



**人気奏者三人そろい踏み！
三者三様の協奏曲の世界を満喫**

協奏曲、それはオーケストラ演奏会の花形である。ソリストの華麗な妙技と繊細な歌心を満喫できる協奏曲のレパートリーは、今も昔も多くの聴衆を惹きつけている。ザ・シンフォニーホールの人気企画「熱狂コンチェルト」も今もとも聞きたい注目ソリスト3人が集う一期一会のコンサートで、これまでも多くのファンから支持されてきた。最初のこの企画が行われたのは、ザ・シンフォニーホール開館35周年の2017年10月14日（開館記念日）。当時は三大協奏曲というタイトルで、ヴァイオリンの松田理奈、チェロの横坂源、そしてピアノの関本昌平という人気と実力を備えた奏者が出演した。そして2025年2月24日の「熱狂コンチェルト」。この日も、今が旬の魅力的な3人のソリストがそろってヴァイオリンの南紫音、チェロの佐藤晴真、そしてピアノの上原彩子である。公演でトップを切るのはヴァイオリンの南紫音。共演経験のある音楽家から「非の打ちどころのない奏者」と絶賛される存在である。2005年に

指揮 現田茂夫



知られざる巨匠、ついにShionに登場！

Shionのコンポーザー・コンダクトの歴史には、アルフレッド・リードをはじめ、ヴァンデルロースト、スパーク、デメイ、バーンズと錚々たる顔ぶれが並びます。

今回はオーストリア出身のトーマス・ドスの初共演。ジョン・ウィリアムズのもとで働いた経歴を持つ氏は、吹奏楽のみならず様々なジャンルの作曲家として世界中に知られています。そして、記念すべき日本での初タクトとなります。

前半は代表作と最新作を交え、吹奏楽の持つ迫力を味わえる作品を揃えました。最新作の1つである「石の番人」は特にその迫力と色彩感が印象的な作品です。また、日本でドスの名を知らしめた「シダス」は星空を題材としたスケールの大きい作品です。

後半は一転してクラシカルな作風の曲を取り上げます。ドスが敬愛する作曲家アントン・ブルックナーの生誕200年のメモリアル・イヤーを祝し、「交響的前奏曲」を吹奏楽にアレンジしました。そして、2020年に出版された三作目の交響曲である「シンフォニー・オブ・フリーダム」。世界人権宣言の第1章の精神に基づき「自由」をさまざまな角度から鑑み表現した話題作で、歴史に残る初共演を締めくくります。

[指揮／作編曲]トーマス・ドス
[吹奏楽]Osaka Shion Wind Orchestra

《オール「トーマス・ドス」プログラム》
トス：フェスティバル・ベルズ／石の番人／シダス／交響曲 第3番「シンフォニー・オブ・フリーダム」
A.ブルックナー（編曲 T.ドス）交響的前奏曲 ハ短調
※やむを得ぬ事情により、出演者、曲目等が変更になる場合があります。予めご了承ください。

2024.11/16（土）2:00PM
全席指定 S 6,000円 A 5,000円 B 4,000円 C 2,500円 学生価格 3,000円（税込）
※C席は、Shionチケットセンター、Shionオンラインチケットのみでの販売。※学生価格は、Shionチケットセンターのみでの販売。
[お問い合わせ]Shionチケットセンター フリーコール：0800-919-5508（平日10:00～17:30）
[主催]公益社団法人 大阪市音楽団

発売中



ロン・ティボー国際コンクールで2位になり、一躍注目を浴びたが、以後じつくりと自身の音楽を深化させ、近年は円熟味をましているヴァイオリン奏者だ。ブルッフの協奏曲では、深みのある音色と秀でた技巧を駆使した演奏を展開してくれることだろう。続いて登場するのは、チェロの佐藤晴真。次々と若き才能がデビューし、空前の活況を呈しているチェロの世界の中でも、ひととき輝きを放っている俊英である。2019年に難関のミュンヘン国際コンクールで、日本人として初めて優勝。高い集中力に支えられ、細部まで磨き上げられた至芸には、20代とは思えないほどの風格も感じられる。「熱狂コンチェルト」シリーズには、すでに横坂源、宮田大といったチェロのスター奏者たちが出演してきたが、次代のスターの佐藤が弾くシューマンの協奏曲は、味わい深い

い名演になるにちがいない。演奏会の最後をしめくくるのは、後輩音楽家から「憧れの存在」と慕われるピアノの上原彩子。チャイコフスキー国際コンクールの覇者として、日本中を沸かせたが、以後の活躍ぶりもめざましい。ザ・シンフォニーホールのリサイタルでもファンを魅了してきたが、今回上原が弾くのはブラームスのピアノ協奏曲 第一番。ピアニストとしても活動したブラームスだが、この協奏曲は重厚なオーケストラの響きに彩られ、ピアノにはスケールの大きさも求められる。高度なテクニックとピアノから多彩な歌心を引き出す手腕に長けた上原のブラームスは必聴である。

（文 伊藤制子）

[指揮]現田茂夫 [ヴァイオリン]南紫音 [チェロ]佐藤晴真
[ピアノ]上原彩子 [管弦楽]日本センチュリー交響楽団

ブルッフ：ヴァイオリン協奏曲 第1番 ト短調 op.26
シューマン：チェロ協奏曲 イ短調 op.129
ブラームス：ピアノ協奏曲 第1番 二短調 op.15

2025.2/24（月・休）2:00PM
全席指定 S 7,700円 A 6,600円 B 5,500円（税込）
[お問い合わせ]ザ・シンフォニー チケットセンター 06-6453-2333
[主催]ザ・シンフォニーホール

発売中

こみちゃんの 温故知シン《vol.11》

小味渕 彦之 (こみぶち ひろゆき / 音楽評論家)



今年2024年はアントン・ブルックナー(1824〜1896)が生誕200年のメモリアル・イヤーを迎え、世界中でブルックナーの交響曲が演奏されています。6月13日に開かれた「シンフォニストの理想を求めて」モーツァルトとブルックナーI」は大阪フィルハーモニー交響楽団がザ・シンフォニーホールとの共催で開く、シリーズ公演の1回目でした。(II写真)この3回構成の特別演奏会では、ブルックナーの初期交響曲3曲にモーツァルトの後期3大交響曲が1曲ずつ組み合わされています。今回はモーツァルトの《交響曲第39番》に続いて、「第0番」という通称で親しまれているブルックナーの《交響曲ニ短調》が取り上げられました。「ゼロ」という番号は、作曲者が晩年に記した書き込み等に由来するのですが、この作品は本来「第2番」となるべき交響曲であり、《ヘ短調》の習作と《第1番》に続いて手がけられたシンフォニーなのです。

大阪フィルは日本のブルックナー作品の受容において、その存在が欠かせないオーケストラです。創設者で音楽監督を務めた朝比奈隆の指揮によるブルックナーの交響曲の

演奏は1970年代から21世紀に入るまで、何にも替え難い輝かしい一時代を築き上げました。ちなみにザ・シンフォニーホールで朝比奈の指揮によるブルックナーの交響曲が鳴り響いたのは、1986年から2001年までの計10回の演奏会であり、その意外に多くはない数に驚かされます。フェスティバルホールで鳴り響いた回数が多かったわけですが、その礎がいかに確固たるものであったのかは、今回の演奏会で強く思い知らされました。

現大阪フィル音楽監督である尾高忠明さんの指揮で奏でられた充実したサウンドに身を浸しながら、それを受け止める聴衆の醸成した雰囲気には、はたと気づかれました。これぞ「文化の継承」なのだと。この通称「第0番」の交響曲は、朝比奈指揮の大阪フィルが唯一日本初演を手がけた交響曲の全曲でした。それは1978年6月の定期演奏会でのこと。46年前になるのですが、きっと今回の会場にもその日の演奏を聴いたという方がいらっしやうたはず。そう確信できる地に足ついた聴衆の反応がありました。

現在の大阪フィルのメンバーには、

46年前の演奏を奏でた演奏者はすでに誰ひとりとして在籍していません。それでも、この日に鳴り響いた音に、脈々と続く大阪フィルが奏でるブルックナーのサウンドを不思議なほどに感じたのです。もちろん、そのことは単なる懐古趣味ではなく、オーケストラとしてブラッシュアップされた、今の大阪フィルの響きの背後に広がる伝統であることは、強調しておきたいと思っています。

この日のブルックナーの演奏に続いて、ここザ・シンフォニーホールでは、同じ大阪フィルが7月7日に井上道義指揮で《第7番》を。さらに7月12日には高関健指揮の関西フィルハーモニー管弦楽団が《第5番》を奏でています。尾高さんは、このシリーズで8月28日に《第2番》を取り上げた後、11月14日に《第1番》を予定するほか、特別編として12月13日には《第8番》を演奏することが発表されました。他にも在阪のオーケストラでは10月4日にトーマス・ザンデルリンク指揮で大阪交響楽団が、そして来年3月8日に鈴木優人指揮で、それぞれ《第7番》がプログラムに並びます。まだまだ続くブルックナー・イヤーをぜひお楽しみに。

Recital "Sky"

美術家 山口和也

絵を描く音による 世界初のリサイタル“Sky”

2024.10.31 歴史的な一夜が開演する

【絵を描く音によるリサイタル】
いったいどんなリサイタルだろうと不思議に思われた方も多いことでしょう。山口和也は、絵画をはじめ様々な作品を独自の手法によって生み出す美術家であり、その制作は「瞬間的な痕跡によって永遠性を描く」という姿勢に基づいています。瞬間や永遠という、クラシック音楽にも通じるところがありますが、20年以上ステージに立って絵を描いてきた山口の瞬発的な筆音(ふでおと)はまるで打楽器奏者のようであり、そのような制作のスタイルは美術界においても唯一無二の存在です。そしてこのたび美術と音楽の垣根も超えたりサイタルが、ザ・シンフォニーホールにて初公演を迎えます。

【はじまりから“Sky”へ】
世界がパンデミックに陥った2020年、山口はロームシアター京都メインホールという劇場のステージへ自らを一人立たせる。BLACKOUT/WHITEOUTという上演を試みました。二千を超える無人の客席を前にした山口は、まるで宇宙空間における個の生命体を象徴するようであり、そこで聴こえてきた自らの足音や息づかいをきっかけとして山口は一筆目をキャンバスへと刻み、その筆音もまたホール内へこだましました。一時間ほどしてステージを降りたあとにはそれら音の痕跡である絵画が残りました。この舞台は人がこの世に誕生してから去るまでの「生きる鼓動」であり「生命のリサイタル」であると考えた山口は、2022年ザ・シンフォニーホールの音楽総監督 喜多弘悦と出会います。翌年3月13日には展覧会「絵画というリサイタル」を同ホールで実施し、その舞台挨拶で喜多氏から「次は山口さんがこの舞台で描いている姿を観たい」という一言があり、リサイタル“Sky”の実現へと繋がります。一人の芸術家がクラシック音楽の殿堂で筆音によるリサイタルを開催した前例はなく、“Sky”は世界初のリサイタルとなります。一つの生命体としてキャンバスの前に立った山口は何を奏で、どんな絵画が誕生するのでしょうか。歴史的な一夜をご一緒しましょう。

Recital "Sky" 初公演

Recital "Sky"は美術家の山口和也がステージ上で絵画を描くその筆音を拝聴いただき、描かれた絵画を鑑賞いただくリサイタルです。

2024.10/31(木) 7:00PM (開場6:00PM)

前売5,000円 当日5,500円 学生3,000円

※パンフレット、次回展覧会入場チケット付き

【前売】ザ・シンフォニーホール/Peatix (QR→)

【協力】ザ・シンフォニーホール

【主催】空花(くうか) お問い合わせ: 075-201-5125

発売中

Peatix



山口和也〈美術家〉

音楽家とステージに立って即興で描かれる絵画「KAKIAIKKO」で、2000年 関口芸術基金賞グランプリを受賞。副賞として滞在したニューヨークで日本画家千住博の依頼を受け、アトリエでの制作風景を五年間撮影、二冊の写真集を刊行する。2008年よりボクサー辰吉丈一郎の撮影を継続。代表作に、大徳寺真珠庵本堂の襖絵「空花」、普照山観音寺本堂の天井画「鳳凰図」、アルマーニ銀座タワーでのライブペインティング「Letter to G.A.」などがある。

Website



TheSymphonyHall × 関西4オケ *Pick Up* コンサート

日本センチュリー交響楽団

日本センチュリー交響楽団 第285回定期演奏会



管弦楽 日本センチュリー交響楽団



指揮 久石 譲

[指揮]久石 譲 [ピアノ]萩原麻未
[管弦楽]日本センチュリー交響楽団

ライビ:デュエット〜2つの独奏ヴァイオリンと弦楽オーケストラのための
シューマン:ピアノ協奏曲 イ短調 op.54
シューマン:交響曲 第2番 ハ長調 op.61

2024.10/24 (木) 7:00PM

全席指定 S [売切] A 6,500円 B 5,000円 C 3,500円 D [売切]

[お問い合わせ]センチュリー・チケットサービス 06-6848-3311

[主催]公益財団法人 日本センチュリー交響楽団

発売中



ピアノ 萩原麻未

世界の名だたるオーケストラに迎えられ、聴衆を熱狂の渦に巻き込み、作曲家としてのみならず指揮者としても国内外で注目され続ける久石譲の登場！氏の十八番とも呼べるミニマルミュージックからはライヒの作品を、センチュリーが誇るコンサートマスター荒井英治と松浦奈々のヴァイオリンで披露します。シューマンのピアノ協奏曲では、日本とフランスを中心に世界各国で活躍中のピアニストの萩原麻未を迎えます。協奏曲と同時期に完成された交響曲第2番とともに、シューマンのロマンチズム溢れる世界をご堪能ください。

大阪フィルハーモニー交響楽団

シンフォニストの理想を求めて 〜モーツァルトとブルックナー Ⅲ



管弦楽 大阪フィルハーモニー交響楽団

[指揮]尾高忠明
[管弦楽]大阪フィルハーモニー交響楽団

モーツァルト:交響曲第41番 ハ長調 K.551「ジュピター」
ブルックナー:交響曲第1番 ハ短調
(ノヴァーク版:1865/1866年 第1稿(リンツ稿))

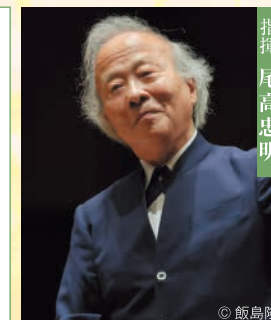
2024.11/14 (木) 7:00PM

全席指定 A 6,000円 B 4,500円 C 3,500円

[お問い合わせ]大阪フィル・チケットセンター 06-6656-4890

[主催]公益財団法人 大阪フィルハーモニー協会

発売中



指揮 尾高忠明

50歳を過ぎてからようやく作曲家として知られるようになったブルックナーの若き日の作品は演奏される機会が少ないのですが、ブルックナー作品の全容を知る上で、初期の作品は欠かすことが出来ません。第1回で、作者自身によって「無効」の烙印を押されるといわれる「第0番」を高い完成度で見事によみがえらせた尾高忠明／大阪フィルのコンビによる初期交響曲シリーズから目が離せません。

大阪交響楽団

大阪交響楽団 第276回 定期演奏会 「秘められた祈り」



管弦楽 大阪交響楽団

[指揮]ガブリエル・フェルツ [ピアノ]三浦謙司
[管弦楽]大阪交響楽団

ブラームス:ピアノ協奏曲 第1番 二短調 op.15
シベリウス:交響曲 第2番 二長調 op.43

2024.11/13 (水) 7:00PM

全席指定 S 6,000円 A 5,000円 B 3,500円 C 2,500円 オルガン 2,000円

[お問い合わせ]大阪交響楽団チケットセンター 072-226-5522

[主催]公益財団法人 大阪交響楽団

発売中



指揮 ガブリエル・フェルツ



ピアノ 三浦謙司

コンサートとオペラの両輪にて躍進するドイツ指揮界の鬼才、ガブリエル・フェルツが2年ぶりの来演！ロン・ティボー・クレスパン国際コンクール(2019)で優勝した気鋭のピアニスト、三浦謙司を招いてのブラームスの重厚な「ピアノ協奏曲 第1番」、そしてシベリウスの人気作「交響曲 第2番」という、劇的にして壮観のプログラムを披露します。なお、この両名曲の緩徐楽章に関連するのは、ベネディクトゥス(ラテン語典礼文)から引用された祈りの言葉の一節や、クリストゥスといった宗教的な言葉——フェルツのタクトが掬い上げる、ドラマティックな音楽に秘められた祈りを、どうぞお聴きください。

関西フィルハーモニー管弦楽団

関西フィルハーモニー管弦楽団第351回定期演奏会 『巴里の灯は遠く…1920's、輝けるフランス』



管弦楽 関西フィルハーモニー管弦楽団

[指揮&ヴァイオリン]オーギュスタン・デュメイ
[チェロ]マルク・コッペイ [管弦楽]関西フィルハーモニー管弦楽団

サン＝サーンス:「ミューズと詩人たち」op.132／サン＝サーンス:チェロ協奏曲 第1番 イ短調 op.33／ラヴェル:「マ・メール・ロワ」組曲／ラヴェル:ボレロ

2024.11/29 (金) 7:00PM

全席指定 S 6,500円 A 5,000円 B 3,500円 C 2,500円

学生席(25歳以下) 1,000円 ※学生席は関西フィル事務局のみ取扱

[お問い合わせ]関西フィルハーモニー管弦楽団 06-6115-9911

[主催]公益財団法人 関西フィルハーモニー管弦楽団

発売中



指揮 オーギュスタン・デュメイ



チェロ マルク・コッペイ

イザイ四重奏団でも活躍した熟練の名手マルク・コッペイ。世界屈指の弦の達人がデュメイの招きで初登場を果たす。まずは二重協奏曲の形を取る《ミューズと詩人たち》から。『このスタイルの楽曲の中では出色のピース』と語るデュメイが指揮と独奏を兼任し、コッペイを迎える。彼は続けてチェロ協奏曲も情熱的に披露。自由自在に躍動するベテランの妙技に、乞うご期待。夢幻の世界へと我々を誘う《マ・メール・ロワ》を挟み、最後はついに《ボレロ》へ。フルートに始まる一つのソロのバトンには、まるで想い出を噛みしめるかのように受け継がれ、奇跡を紡いでゆく。デュメイが贈る感動の16分間。彼の至芸をぜひ味わい尽くして頂きたい。